

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群

和田上遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群

馬瀬口遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群

和田上遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸和田上遺跡 第2次調査

馬瀬口遺跡群

馬瀬口遺跡Ⅱ

長野県佐久市瀬戸馬瀬口遺跡 第2次調査

2013.3

中部電力株式会社
佐久市教育委員会



和田上古墳墳丘上の石碑

昭和8年刊行の「南佐久郡の考古学的調査」で南佐久郡縄文時代大遺跡の双壁と八幡一郎氏により紹介されているように、和田上遺跡は古くから知られていた。さらに、遡って明治

29年8月には、帝国大学理科大学教授坪井正五郎氏が和田上遺跡の調査に訪れている。氏と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨大な碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。

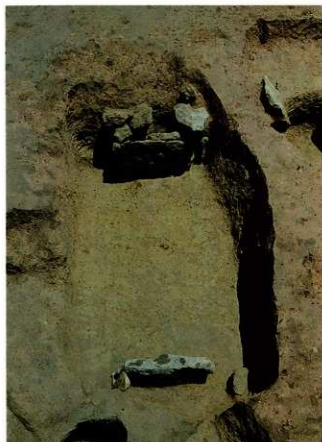
石器使用人民棲息之跡
凡古物遺跡ニ三類ノ別有リ史書ニ微シテ何タルヲ知ルヲ得ベキモノ記録未
ダ備ハラザル時期ニ属スルモノ及ビ文字ノ傳フル所ニ先ズルモノ是ナリ第
一ヲ有史時代第二ヲ原史時代第三ヲ先史時代ノ古物遺跡ト云フ信濃國ノ有史
時代古物遺跡ニ富ムハ普ク人ノ知ル所原史時代古物遺跡ニ乏シカラザルハ夙
ニ考古家ノ稱フル所而シテ近時人類學ニ志有ル者先史時代古物遺跡モ亦少
ラザルヤ云フ余曩ニ帝國大學ノ命ヲ奉ジテ南佐久更級遺跡ノ三郡ヲ遍歴シ專
ラ第三類ニ属スル調査ヲ爲シテ眞ニ比類ノ遺跡甚多キヲ認メタリ南佐久郡中
瀬村大字瀬戸字和田上ニモ其一ヲ存ス余ガ之ヲ實踐シタルハ明治二十九年八
月二十日ニシテ此時嚮導ノ勞ヲ探ランタルハ多年古物遺跡ニ意ヲ注ギ居ラレ
タル同村神職青木造氏ナリ余ハ同行諸氏ト共ニ石鏃石匙打製石斧凹石土器等
ヲ獲テ此地ノ石器使用人民棲息ノ跡ナルヲ明カニセリ此人民ハ太古ヨリ廣ク
日本諸地方ニ繁殖セシ者ニシテ其隆盛ノ時ハ今ヲ距ル大畧二千年ノ昔ト云テ
可ナリ有史時代ノ古戰場原史時代ノ古墳墓ノ如キハ之ヲ探ル事敢テ難シトセ
ザルモ先史時代ノ遺跡ニ至リテハ少シク注意ヲ怠レバ忽チ湮滅スルノ恐レ有
リ善イ故碑ヲ建テテ其所在ヲ示スノ舉有ルヤ発起人諸氏余ニ文ヲ徴ス即チ此
記ヲ作りテ貴ヲ塞グ後ノ遺跡實踐古物採集ニ志有ルノ士若シ之ヲ以テ道標ト
ナス事有ラバ當ニ余ガ幸ノミナラス諸氏ノ意毛達シタリト云フ可キナリ
明治二十九年十一月 帝國大學理科大学教授 坪井正五郎 撰
神職堀籠好雄謹書



前方中央の台地上が和田上遺跡ⅡB地区、左側の台地に勝負沢遺跡・寄山遺跡が存在した。豊かな湖の幸を授かった旧志賀湖畔の原始・古代の集落址である。



1:1
上鏃
(和田上遺跡ⅡA地区
H2号住居址出土)
1:2
石鏃
(和田上遺跡ⅡB地区
Cトレンチ出土)



和田上遺跡Ⅱ B地区D41号土坑

長軸長2.45mの長方形をした石棺墓である。小口側に熔結凝灰岩の平石を立積みしている。小龍市岩下遺跡・石神遺跡に類例がある。



和田上遺跡Ⅱ B地区M1号溝状遺構

検出された長さ22.8mの弥生時代中期栗林式期の環濠である。佐久地区では、平賀後家山遺跡について2例目である。



管玉(碧玉)
(和田上遺跡Ⅱ B地区H4)



1:4
小型甕
(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ A地区H1)



1:4
甕(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ B地区H2)



和田上遺跡Ⅱ B地区M1号溝状遺構断面

溝の幅1.44~1.76m溝の底は0.17mで、防衛施設にふさわしい「V」字形の断面をしている。



1:4
鉢(弥生時代栗林式)
(和田上遺跡Ⅱ B地区M1号)

1:4
甕(弥生時代栗林式)

例 言

1. 本書は、中部電力株式会社が行う佐久リサーチパーク供給線新設工事に伴う馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ及び高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 長野市柳町18 中部電力株式会社
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 馬瀬口遺跡Ⅱ(SNKⅡ)佐久市瀬戸86-1外
和田上遺跡Ⅱ(WDⅡ) 佐久市瀬戸2-2、30-1外
5. 調査期間及び面積 馬瀬口遺跡Ⅱ
発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
平成24年4月10日～平成25年3月 報告書刊行
開発面積 727㎡ 調査面積 43.2㎡
和田上遺跡Ⅱ
発掘調査 平成23年4月4日～平成23年6月8日
整理調査 平成23年4月26日～平成23年10月18日
平成24年6月29日～平成25年3月 報告書刊行
開発面積 681㎡ 調査面積 350.25㎡
6. 発掘調査の担当 林幸彦・佐々木宗昭
7. 石質の鑑定は、羽毛田卓也が担当した。
8. 出土遺物自然科学分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址-H 土坑-D 溝状遺構-M ビットーPである。
2. 挿図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水糸標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリーントーンは、以下のことを示す。



基山断面



床下の垣上
自然面(石器)



住居



粘土
礫面(石器)



黄土



黒色地層(土砂)



赤色塗彩



須臾器断面

目 次

巻頭図版

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯 1

1. 調査に至る経緯 1

2. 調査体制 1

3. 調査の経緯 1

第2節 調査の概要 1

1. 遺跡の立地と環境 1

2. 基本層序 2

3. 検出遺構と遺物の概要 2

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 和田上遺跡Ⅱ A地区の遺構と遺物 2

1. 竪穴住居址 2

2. 土坑 8

第2節 和田上遺跡Ⅱ B地区の遺構と遺物 9

1. 竪穴住居址 9

2. 土坑 16

3. 溝状遺構 28

4. ビット 32

5. 遺構外出土遺物 35

第3節 馬瀬口遺跡Ⅱの遺構と遺物 35

第4節 調査のまとめ 35

付表

付録 和田上遺跡Ⅱの自然科学分析 (パリオ・サーヴェイ株式会社) 48

図版

第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

今回、中部電力株式会社により佐久リサーチパーク供給線新設工事が計画された。佐久市横和宮の上遺跡群・西妻神遺跡から瀬戸馬瀬口遺跡群・高師町遺跡群までの総延長約3kmの範囲である。宮の上遺跡群と西妻神遺跡内は市街地現道路敷きのこと、範囲が0.8mと極狭であり工事中立ち会うこととした。馬瀬口遺跡群と和田上遺跡群は、遺跡の状況把握のため平成22年11月26日～12月7日試掘調査を実施した。両遺跡から遺構が検出され、遺物が出上した。保護協議の結果、平成23年度に記録保存の発掘調査を実施することになった。

2. 調査体制

平成23年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長 土屋 盛夫	
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	社会教育部次長 藤巻 浩
	文化財課長	吉澤 隆	文化財係長 三石宗一
	文化財調査係専門員	林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也	
	文化財調査係	並木 節子 富沢 一明 上原 学 神津 一明(10月～)	
		井出 泰章(～9月) 出澤 力(～6月) 久保 浩一郎	

平成24年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長 土屋 盛夫	
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	文化財課長 吉澤 隆
	文化財係長	三石 宗一	
	文化財調査係専門員	須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学	
	文化財調査係	並木 節子 神津 一明 久保 浩一郎 林 幸彦(嘱託)	

調査体制

調査担当者	林 幸彦 佐々木宗昭	調査副主任	堺 益子
調査員	赤羽根充江 浅沼勝男 磯貝律子 市川光吉 飯森成英 岩崎重子 岩松茂年 白田絢佳 白田 猛 柏木義雄 加藤ひろ美 狩野小百合 神津和子 神津千春 小林節子 小林千勝 坂井一夫 澤井知春 清水律子 副島充子 田中ひさ子 土屋邦子 中山清美 花里佐恵子 林まゆみ 羽毛田利明 平林麻胡 広瀬梨恵子 堀籠保子 依田三男 柳沢孝子 横尾敏雄 渡辺広野		

3. 調査の経緯

平成23年 4月4日～6月3日 馬瀬口遺跡Ⅱ・和田上遺跡Ⅱ表土除去。遺構確認・遺構記録。
4月4日～7日 近隣挨拶、器材搬入、調査区設定。4月19日和田上遺跡ⅡB地区重機で表土除去。4月20日測量杭打設。4月28日和田上遺跡ⅡA地区埋め戻し。6月3日～6日和田上遺跡ⅡB地区埋め戻し。6月6日～8日器材撤収・整備。
4月26日～10月18日現場と併行して遺物整理作業。

平成24年 11月2日～平成25年3月25日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。

第2節 調査の概要

1. 遺跡の立地と環境

高師町遺跡群・馬瀬口遺跡群は、志賀川右岸浅間第一軽石流堆積地南端の台地上に立地し、標高は697m内外を測る。高師町遺跡群和田上遺跡は古く知られていた。出上する縄文時代遺物の種類・数量の豊富



第1図 和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡Ⅱ位置図(1:50,000)

さは、南佐久郡佐久穂町の佐久西小学校裏遺跡と共に「南佐久郡大遺跡の双壁」と、昭和八年刊行の「南佐久郡の考古学的調査」で八幡一郎により紹介されている。さらに遡って、日本人類学会を発足させた坪井正五郎が明治29年8月に和田上遺跡の調査に訪れている。坪井正五郎と地元関係者が煙滅し易い遺跡の保護・保存・研究の進展を願った巨大な石碑が、調査地点に隣接する和田上古墳墳丘上に建立されている。和田上遺跡の東方眼下に展開する水田地帯は、かつて食料資源が豊富な湖であった。志賀湖である。戦国期の佐久郡絵図に志賀川・香坂川・瀬戸川・霞川の下流に志賀湖が明瞭にえがかれている。周辺には、この志賀湖を生活のよりどころの一端とした縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺跡が数多く知られている。湖の南縁台地上現在の佐久リサーパークに存在した奇山遺跡や勝負沢遺跡では、縄文時代前期・中期の竪穴住居址100軒等が調査された。台地北端には、湖に臨む奇山古墳も築かれていた。この調査では、15,800年前に大規模な火砕流(浅間火山第一軽石流)が志賀湖を乗り越えたことが検証された。旧石器時代の植生が窺えるマツ科針葉樹の埋没樹の自然科学分析の結果である。今回検出された火砕流にバックされた埋没樹の分析も同様な結果を示している。湖北縁の台地上にある戸坂遺跡群の4次にわたる発掘調査で縄文時代中期・弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代の集落の一端が検出されている。第2次・第4次調査で弥生時代後期の環濠と推定されている大きな溝状遺構が発見され注目されている。さて、和田上遺跡は前述のように明治時代以前から縄文時代中期中葉の深鉢・後期の浅鉢の完形品などの土器や石器が様々な人々によって大量に採集されてきた。遺物の時代は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、に及ぶ。本調査では、縄文時代草創期の瓜形文土器や早期の押形文土器も発見されている。発掘調査は、昭和54年に和田上南遺跡(和田上遺跡第1次調査)で行われている。弥生時代中期梁林期が4軒、平安時代が4軒検出された。平安時代の住居址から土鍾が出土している。今回の調査でも土鍾と石鍾が検出され、志賀湖畔集落の漁猟が積極的に推測できる。馬瀬口遺跡の第1次調査で古墳時代住居址4軒、平安時代住居址4軒等が発見された。南方の台地下志賀川第1段丘上の和田遺跡から、縄文時代後期掘之内式期の数石住居址1軒が調査されている。豊かな湖の幸をもたらした志賀湖は、戦国末期にその姿を変える。佐久郡を領地とした小諸城主仙石氏が文禄年間(1600)に志賀湖を干拓し、志賀湖を耕地化した。今回の調査地点である電力送電塔の東南眼下の川を堰き止める堤防の潜り岩の開鑿である。現在、広大な家畜改良センター長野牧場が展開している高師町遺跡群と馬瀬口遺跡群一帯の水利に乏しい火砕流堆積地の新田開発に挑んだ人々の歴史もある。まぼろしの村杉山新田開発である。常木用水や湯川からの用水確保は困難で、牧場用地内北東にある八幡宮や稲荷社付近にあった松ヶ池などの溜池が頼りであったようである。延宝7年(1679年)立村した杉山新田村は、寛延元年(1747年)70年間で消滅したという。和田上遺跡の調査地点は、杉山新田村の南東村境にあたる。

2. 基本層序

浅間火山軽石流堆積層が南方に漸次標高を下けているが、和田上遺跡一帯は逆に小高くなる。このため、南に下がる低地が両遺跡間から北東に延び、和田上遺跡の北側に展開する。両遺跡とも浅間火山軽石流堆積層の上面で、遺構確認された。馬瀬口遺跡では、Ⅱ層中に部分的に砂層が見られた。

3. 検出遺構と遺物の概要

和田上遺跡ⅡA地区 竪穴住居址6軒(弥生時代中期、平安時代)、土坑2基。遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土鍾)、磨製石

和田上遺跡ⅡB地区 竪穴住居址7軒(縄文時代後期、弥生時代中期、平安時代)、土坑45基、溝状遺構4条、ピット36基。遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生中期土器、土師器、須恵器、土製品(土鍾)、磨製石

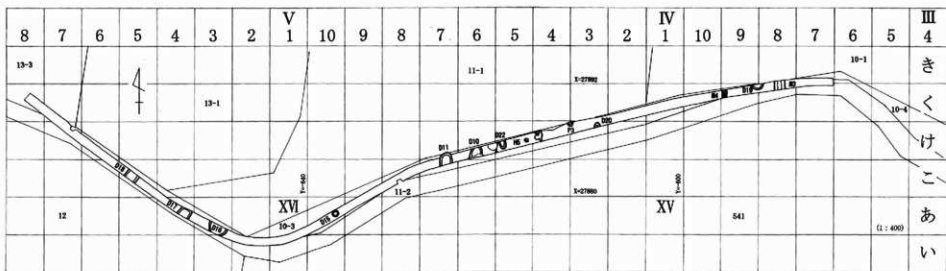
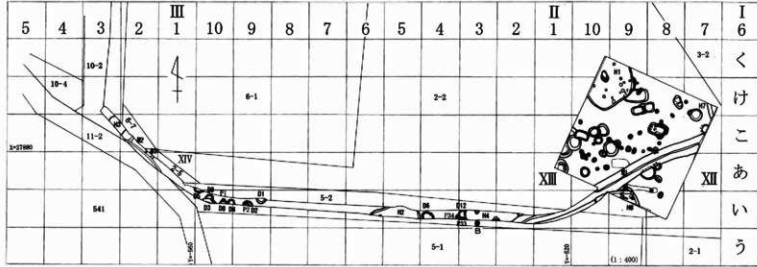
馬瀬口遺跡Ⅱ 竪穴住居址1軒(平安時代)、溝状遺構4条、ピット2基。遺物 土師器、須恵器、

第二章 遺構と遺物

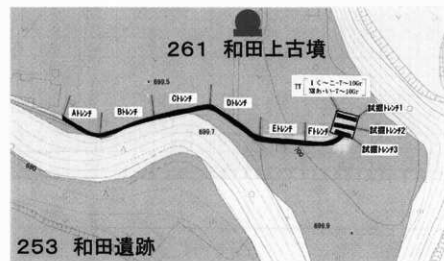
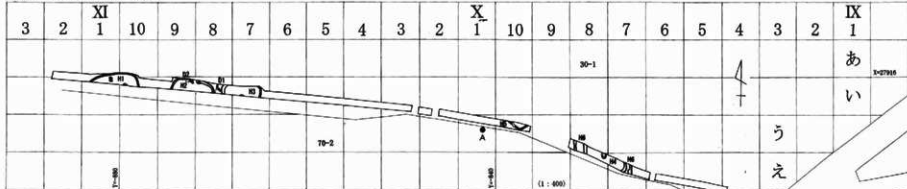
第1節 和田上遺跡ⅡA地区の遺構と遺物

1. 竪穴住居址

和田上遺跡Ⅱ B地区

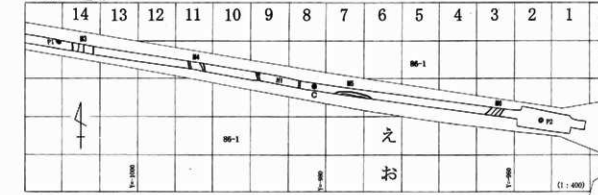


和田上遺跡Ⅱ A地区

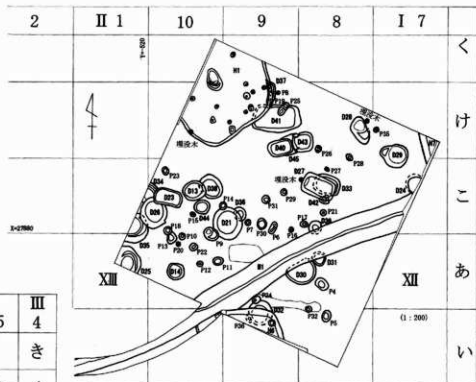


和田上遺跡調査区設定図(2) (1:2000)

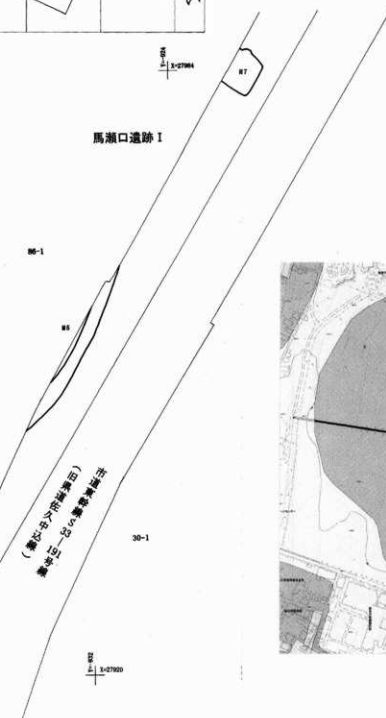
馬瀬口遺跡Ⅱ



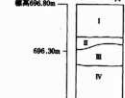
第2図 和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡Ⅱ調査全体図



馬瀬口遺跡Ⅰ

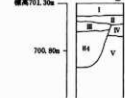


和田上遺跡Ⅱ A地区



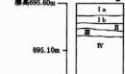
- I層 黒褐色土(10YR5/2)耕作土
- II層 暗褐色土(10YR2/2)粘土・砂・黄土
- III層 暗褐色土(10YR2/2)粘土・砂・黄土
- IV層 黄褐色土(10YR5/6)粘土。場所により明黄褐色土(10YR5/6)・赤褐色土(10YR4/6)・明黄褐色土(10YR7/2)がみられる。浅間火山礫石混雑。黄褐色の礫石多量。

和田上遺跡Ⅱ B地区

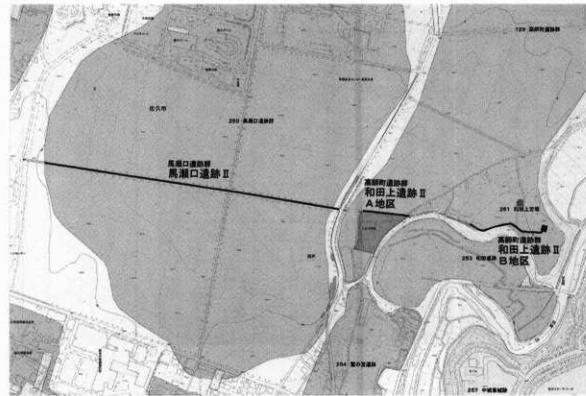


- I層 黒褐色土(10YR5/2)耕作土
- II層 黒褐色土(10YR2/2)
- III層 暗褐色土(10YR2/2)粘土
- IV層 暗褐色土(10YR2/2)粘土・黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック含む
- V層 黄褐色土(7.5YR5/2)浅間火山礫石混雑。黄褐色の1~5cm大礫石多量。

馬瀬口遺跡Ⅱ



- I層 黄土(表層内遺跡)
- II層 黄土
- III層 黄土
- IV層 黄褐色土(10YR5/2)黄褐色の1~5cm大礫石多量。

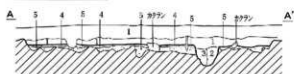
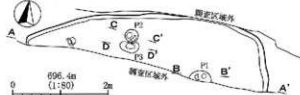


馬瀬口遺跡Ⅱ・和田上遺跡Ⅱ 調査区設定図(1) (1:8000)

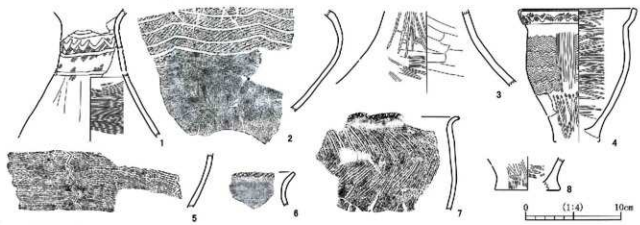
(1) H1号住居址

Ⅱ区西端にあり、大半は南側の調査区域外となる。P2は棟持柱、P1は支柱穴である。床は堅く平坦である。遺物は弥生土器の甕・甕が出土した。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

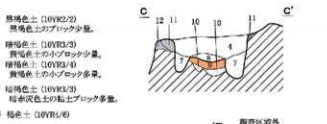
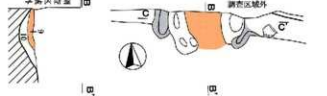
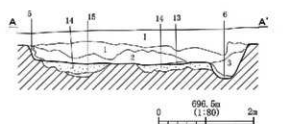
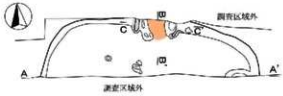
H1号住居址



- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土の小ブロック多量。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) しまりない。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色土の小ブロック多量。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/0) 黄褐色土の粘土多量。灰。
- 5層 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土の小ブロック多量。炭灰混土。

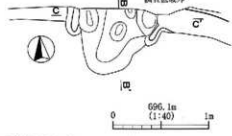


H2号住居址(1)



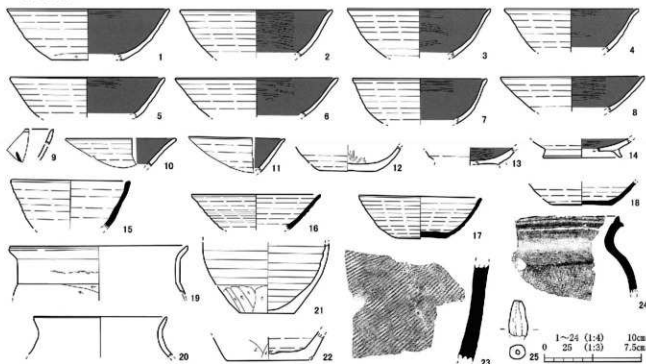
- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土の小ブロック少量。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土の小ブロック多量。
- 4層 暗褐色土 (10YR3/2) 暗赤褐色土の粘土ブロック多量。
- 5層 褐色土 (10YR4/4)

- 6層 暗褐色土 (10YR3/3) に黄褐色土の小ブロック多量。
- 7層 暗褐色土 (10YR3/2) 暗赤褐色土の粘土ブロック多量。炭土小ブロックと灰を含む。
- 8層 に黄褐色土 (10YR3/3) 灰。
- 9層 赤褐色土 (2.5YR1/6) 粘土 (10層の裏けたもの)。
- 10層 暗赤褐色土 (5YR3/2)
- 11層 暗褐色土 (7.5YR2/2) 粘土。
- 12層 黒褐色土 (7.5YR2/2)
- 13層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。(暗赤褐色土の粘土ブロック含む)。
- 14層 暗褐色土 (10YR3/0) 炭灰混土。に黄褐色土の小ブロック多量。
- 15層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭灰混土。

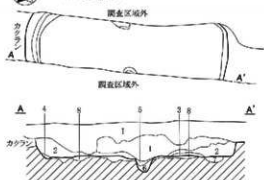


第3図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H1号住居址・H2号住居址(1)

H2号住居址(2)

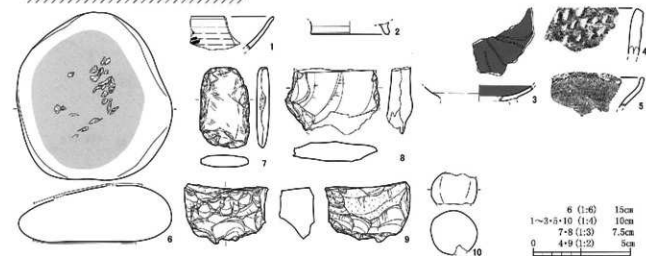


H3号住居址



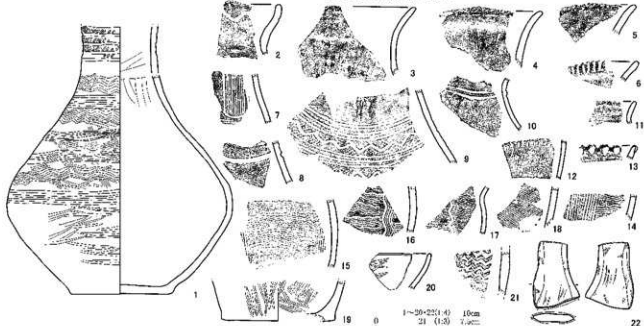
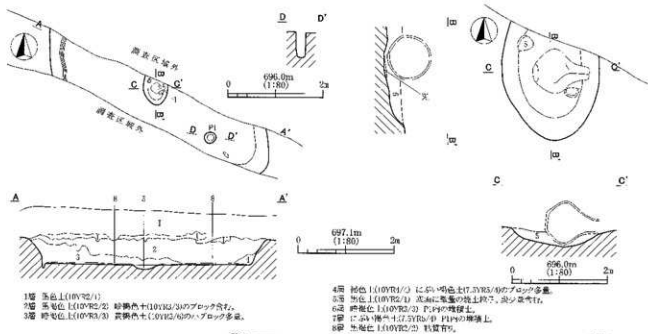
- 1層 輝褐色土(HVRS/3) 黒色(HVRS/1)のブロック多量。赤褐色土(T.SVRS/6)のブロック少量。
- 2層 輝褐色土(T.SVRS/3) 褐色土(T.SVRS/2)のブロック多量。黒褐色土(T.SVRS/2)のブロック少量。
- 3層 赤褐色土(HVRS/2) 灰少量。粘質あり。
- 4層 褐色土(T.SVRS/4)
- 5層 褐色土(T.SVRS/3) L.多い。
- 6層 L.多い。褐色土(T.SVRS/4) L.多い。
- 7層 褐色土(HVRS/4)
- 8層 輝褐色土(HVRS/4)

696.7m
(1:80) 2m

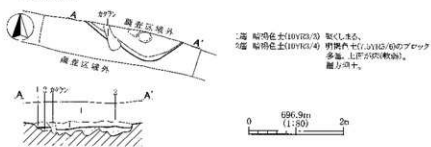


第4図 和田上遺跡Ⅱ A地区 H2号住居址(2)・H3号住居址

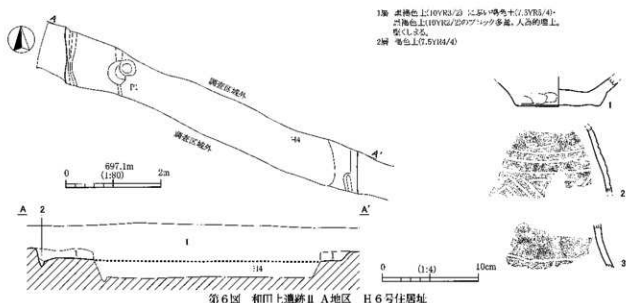
H4号住居址



H5号住居址



第5図 和用土遺跡Ⅱ A地区 H4号住居址・H5号住居址



(2) II 2号住居址

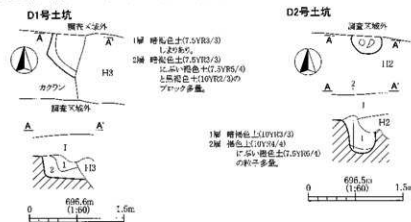
Xい-8・9Grにあり、D2を切る。カマド付近が検出された。北壁中央のカマドは、粘土と黒褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床は堅く平坦である。遺物は、土師器2~11の坏か碗、13・14の碗、19~22の甕、須恵器環15~18、甕23・24、25の土錘が出土した。1は底部外周手持ちヘラケズリ、1~8・10・11・13・14は内面黒色処理される。19は「コ」字口縁の武蔵甕、21・22はロクロ甕である。9には墨書が認められるが判読不能。本址はこれらの遺物より小林眞寿の福年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(3) II 3号住居址

Xい-7・8Grにあり、北壁・南壁部分は調査区域外。床は堅く平坦である。遺物は、土師器坏か碗の1、碗か皿の2・3が出土した。3は内面黒色処理される。他に本址に伴わない縄文時代草創期の爪形文土器4、弥生時代中期の壺5、打製石斧7・8等がある。本址はこれらの遺物より平安時代であろう。

(4) H 4号住居址

IXう-8、IXえ-7・8Grにあり、H6を切る。地床炉が、住居址中央にある。この炉内部に1の壺が横倒して出土した。床は堅く平坦である。ピットは主柱穴と見られるP1が確認された。西壁下に壁高が巡る。遺物は弥生土器の壺1~10、甕11~19、鉢20、22の砥石、本址に伴わない縄文時代早期の山形押形文土器が出土した。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。



(5) H 5号住居址

IXう-10にある。床面軟弱、壁の角が検出されたのみで時期等詳細は不明。

(6) H 6号住居址

H4号に大半を破壊される。柱穴P1、1~3の弥生時代中期壺が検出された。弥生中期栗林式期。

2. 土坑

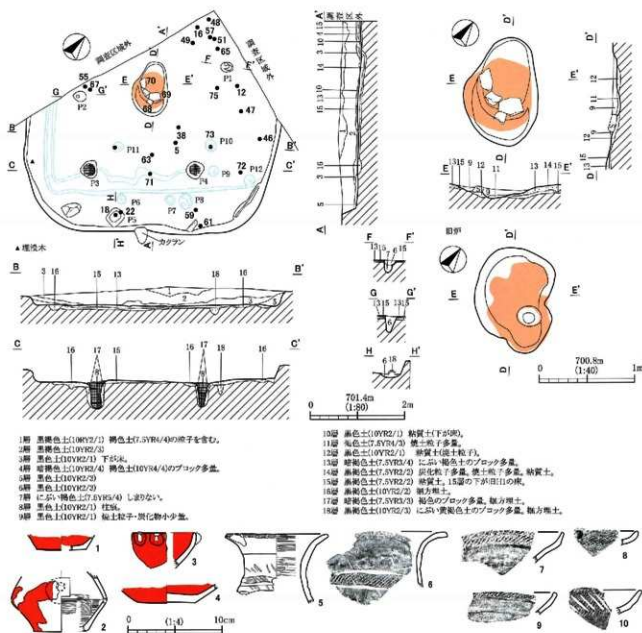
2基検出された。詳細不明。

第2節 和田上遺跡ⅡB地区の遺構と遺物

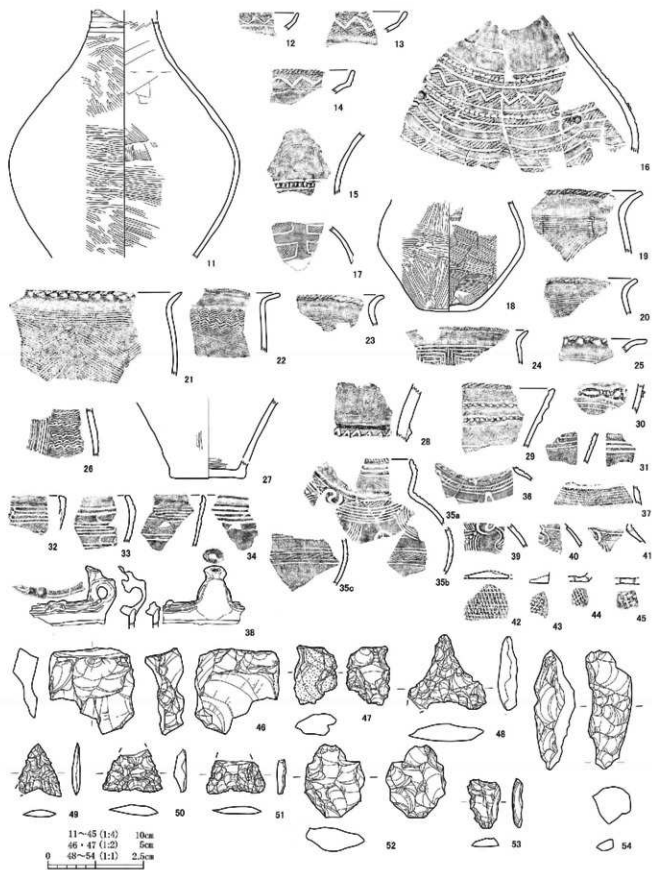
1. 竪穴住居址

(1) H1号住居址

Iく・け-9・10Grにある。D37、D41、P19を切る。4個の丸燧石を持つ地床が住居址中央にあり、その下に旧炉がある。ピットは12個検出、主柱穴P3・P4で柱痕が確認された。南壁のP7・P8は出入口施設か。床は堅く平坦。床下から南壁から西壁を巡る溝と床が検出され、旧炉の存在から住居南と西側が拡張されとみられる。遺物は弥生土器壺・甕・赤彩の鉢・台付甕、二枚貝、本址に伴わない縄文時代中期後半～後期初頭・堀之内2式・賀曾利B1式の土器が出土。石鎌・石錐・楔?・削器・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・台石・二次加工のある剥片など、石器の時期は明確でない。本址は弥生時代中期柴林式期に位置づけられる。本址西壁下の埋没木(モクレン属)放射性炭素測定年代は13,700±40yrBP、暦年較正結果はcalBP16,913-calBP16,754 (calBC14,964-calBC14,805)であった。



第8図 和田上遺跡ⅡB地区 H1号住居址(1)



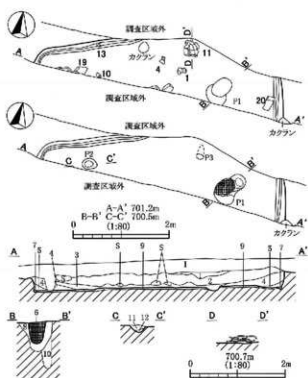
第9图 和田上道跡Ⅱ B地区 H1号住居址(2)



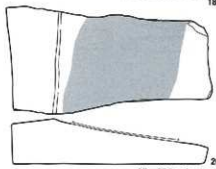
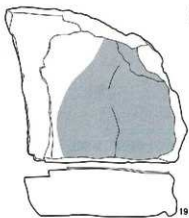
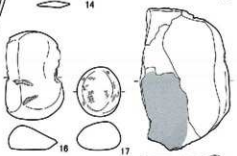
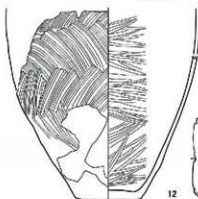
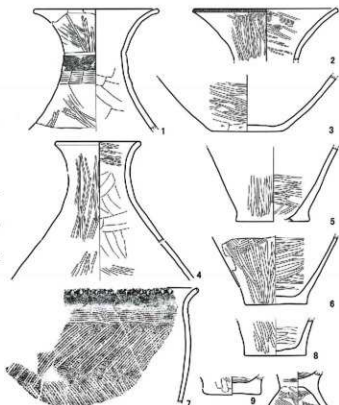
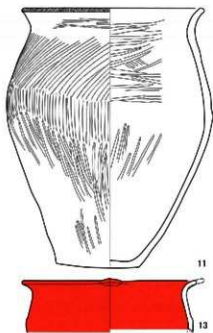
第10図 和上遺跡Ⅱ B地区 II1号住居址(3)

(2) H2号住居址

XⅢい-5・6Grにあり、大半は南側調査区域外にある。3個検出され、P1は主柱穴で柱痕が確認された。P3は南に傾く掘方である。床は堅く平坦。検出された東壁、北壁から西壁下には壁溝が認められた。床に達する4層上部に炭が多量に見られた。11の甕が横位で床面から出土した。遺物は弥生土器1~4の壺、5~9・11・12の甕、13の赤彩の高坏、10の台付甕、石織・敲石・磨石・台石・編み物石、石皿等の



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)しじりあり。
- 2層 褐色土(10YR4/4)しじりあり。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)しじりあり。
- 4層 暗褐色土(10YR2/4)しじりあり。
4層以上に同多量。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2)しじりあり。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2)しじりあり。
- 7層 暗褐色土(10YR2/4)しじりあり。
- 8層 に灰・黄褐色土(10YR/3)
- 9層 褐色土(10Y2/1)塊・堅くまとる。
- 10層 褐色土(10YR/4)
- 11層 に灰・黄褐色土(10YR/4)
暗褐色土(7.5YR3/3)小ブロック多量。
- 12層 に灰・褐色土(10YR5/4)



18~20(1:6) 15cm
1~13-15~17(1:4) 10cm
0 14(1:1) 2.5cm

第11図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H2号住戸址

石器(帰属時期不明)がある。1・2の壺、7・11の甕の口唇部に縄文LRが施文される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

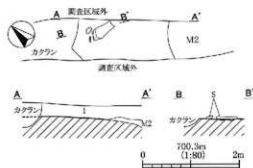
(3) H3号住居址

Ⅲこー2・3Grにあり、M2に切られ、北西部分は耕作等の擾乱で破壊されている。平らな鉄平石が2枚水平に置かれていたため、縄文時代敷石住居かと判断したが積極的な確証はない。重複遺構のM2からは、縄文時代中期後半・後期堀之内1・堀之内2式土器が多く出土している。

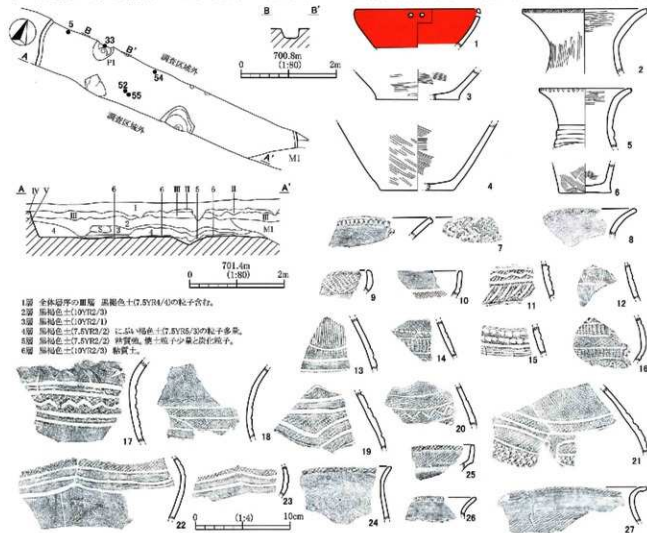
(4) H4号住居址

XⅢいー2・3GrにありM1に切られ、大半は北東・南西側調査区域外にある。住居址ほぼ中央に地床炉がある。P1は主柱穴となろう。床は堅く平坦。炉の周囲に床に張り付く6層の粘質土が見られた。管玉(碧玉)55が床面から54が20cm床上から出土した。

遺物は弥生土器内外面赤彩の鉢1、壺2~23、甕24~36、管玉54・55、本址に伴わない縄文時代中期後半・堀之内1式・賀曾利B1式・後期の土器が出土した。帰属時期不明確の石器、磨石・敲石・石鏃・打

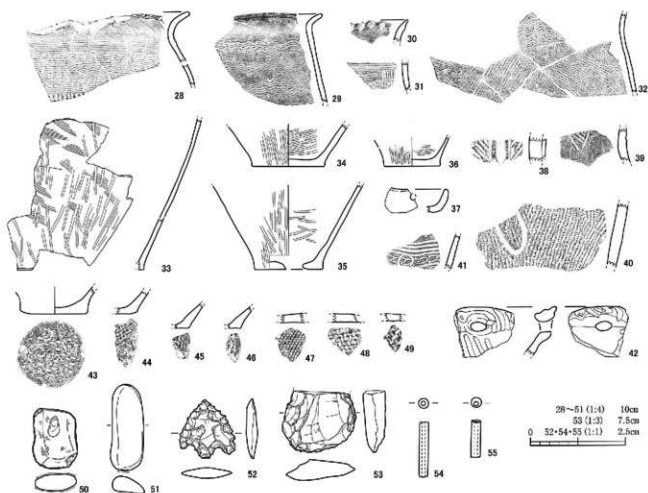


第12図 和岡上遺跡Ⅱ B地区 H3号住居址



第13図 和岡上遺跡Ⅱ B地区 H4号住居址(1)

- 1部 全体器厚の裏面 黒褐色土(7.SYR4/D)の粒子含む。
- 2部 黒褐色土(1.OYR2/3)
- 3部 黒褐色土(1.OYR2/1)
- 4部 黒褐色土(7.SYR2/2) に近い黒褐色土(7.SYR5/3)の粒子多量。
- 5部 黒褐色土(7.SYR2/2) 粘質物。黄土粒子少量の炭化粒子。
- 6部 黒褐色土(1.OYR2/3) 粘質土。



第14図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H4号住居址(2)

製石弁がある。

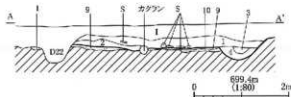
壺口縁部は単純口縁2・5受口口縁9・10が、口唇部施文には2・8・9の縄文LR5のヘラ描刻目がある。7は口唇部に細い沈線と刻目、内面に櫛歯状工具の綾杉状の刺突が施される。頸部・胴部の施文には、平行沈線間に縄文LRやヘラ描連続山形文が多い。さらに、刺突列14・15、櫛歯状工具の刺突列14・16、ヘラ描鋸歯文12、U字状沈線区画内に櫛歯状刺突で充填する13などがある。甕口縁部は単純口縁24・26～30受口口縁25が、口唇部施文には24～27の縄文LRがある。30には、櫛歯状工具の押捺と刻目が施文される。本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(5) H5号住居址

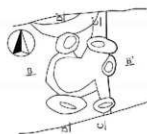
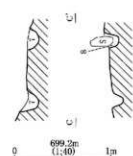
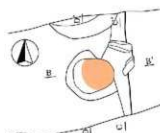
IVけ-4・5Grにあり、D22に切られる。住居北側と南側の大半は、調査区域外にある。カマドは、東



第15図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H5号住居址(1)



- 1層 黄褐色土(10YR2/2) 10~25cm 穴の層を含む。
- 2層 黄褐色土(10YR5/6) 堅く締まる。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6) ブロック多量。
- 4層 暗褐色土(10YR2/2)
- 5層 褐色土(10YR2/3) 主体で、淡黄褐色土(10YR6/2) ブロック層帯を含む。



- 6層 灰黄褐色土(10YR4/2) 主体層。
- 7層 褐色土(7.5YR4/3) L29など。
- 8層 暗褐色土(10YR2/4)
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) 灰、堅く締まる。
- 10層 褐色土(7.5YR4/3) に灰・褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。四方柱土。

第16図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H5号住居(2)

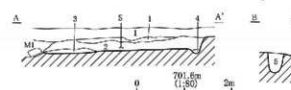
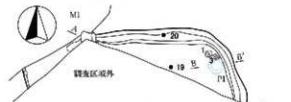
壁中央に設置され、火床と焙結凝灰岩の袖部芯材一部が残存していた。カマド火床の両脇から検出された小ピットは、袖部芯材となる礫を埋め込んだものであろう。カマド西側床面に散在している焙結凝灰岩は、構築材であろうか。ピットは2個検出された。床は堅く平坦。床下掘方は浅く、みられないところもある。

遺物は、土師器、本址に伴わない縄文時代土器中期後半・称名寺式・堀之内2式、弥生中期栗林土器が出土した。土師器は碗1~3、坏5、坏か碗4・6・7がある。2以外は内面黒色処理される。1~3・5は、底部回転糸切り。5には「丈」が墨書されている。6も墨書が窺えるが判読不能。

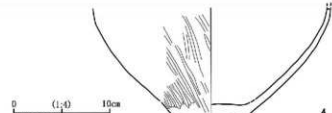
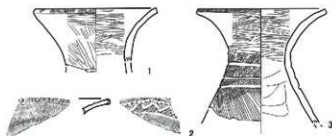
本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(6) H6号住居址

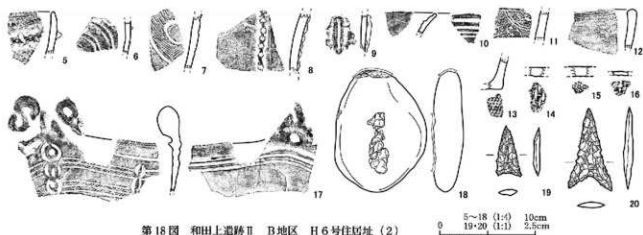
XⅡⅠ-9・10GrにありM1に切られ、D32・P36を切る。住居南側の大半は、調査区域外にある。北壁・東壁下に壁高が巡る。床は堅く平坦、床下掘方は認められない。P1は葺き床の下から検出できた。



- 1層 黄褐色土(10YR2/1) 暗褐色土(10YR3/3)のブロック多量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/2) に灰・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。
- 3層 褐色土(7.5YR4/3) 黄褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。
- 4層 に灰・褐色土(7.5YR2/0)
- 5層 に灰・褐色土(7.5YR3/3)に硬める。



第17図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H6号住居(1)



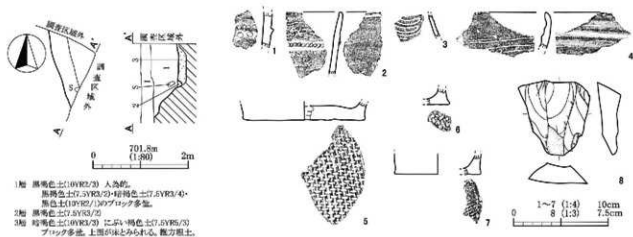
第18図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H6号住居址(2)

遺物は弥生土器壺1~4、本址に伴わない縄文時代後期前半・称名寺・堀之内2式・加曾利B1式・後期の土器、帰属時期不明確の石鏃・敲石が出土した。壺は3点とも単純口縁。1・3の口唇部に縄文LR、頸部にヘラ描平行沈線が施文される。3は地文縄文LR。2は口唇部に縄文LR刻みを付す小突起、内面口縁に沿ってヘラ描連続刺突その下地文縄文LRヘラ描連続山形文が施される。

本址は弥生時代中期栗林式期に位置づけられる。

(7) H7号住居址

1ヶ・こ-7Grにある。調査できた範囲が狭く住居址とはいきれない。遺物は、称名寺式・堀之内2式・加曾利B1式・後期のすべて縄文土器、石核が出土した。

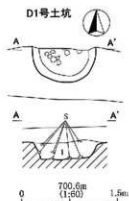


第19図 和田上遺跡Ⅱ B地区 H7号住居址

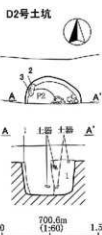
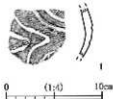
2. 土坑

45基が検出された。D10・D15・D17・D18・D22は出土遺物が皆無、D11・D16は9世紀前半のH5号住居址付近にあり同時期の土師器が出土した。他の35基から、縄文時代中期後半・称名寺・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1の土器や石器が出土した。縄文時代の土坑は、T T地点(鉄塔建設予定地)とXⅢい-9・10Grに集中する。覆土は大半が人為的な埋土である。

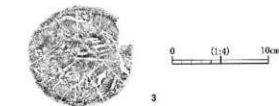
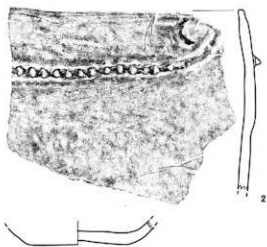
長方形のD27・D33・D41号土坑は、小口側に熔結凝灰岩の平石が立積みされる。D45号土坑は側壁に平石が立積みされる。自然科学分析はしていないが、人骨が確認された小諸市石神遺跡縄文時代後期第3号土坑墓、同市岩下遺跡堀之内2式期1号石棺に類例があり、縄文時代後期前半の墓といえよう。堀之内2式土器・大型獣類焼骨・炭化したオニグルミが出土したD26は、ゴミ穴であろうか。このオニグルミの放射性炭素測定年代は3,470±20yrBP、暦年較正結果はcalBP3,824-calBP3,695 (calBC1,875-calBC1,746)であった。称名寺式期の袋状土坑D24は、形態等から貯蔵穴であろうか。



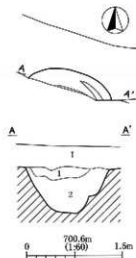
D1
1層 暗褐色土(T.SYR3/3)
に灰・褐色土(T.SYR5/3)
の砂子多量。Lありあり。
黒褐色土(T.SYR2/3)小ブロック少量



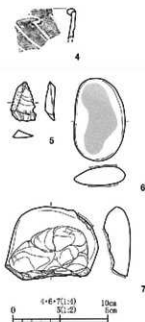
D2
1層 褐色土(T.SYR4/3)



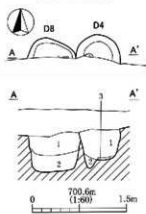
D3号土坑



D3
1層 黒色土(10YR5/1)
2層 暗褐色土(T.SYR3/3)
Lありあり。人為的。
に灰・褐色土(T.SYR5/3)
の小ブロック多量。
褐色土(10YR2/1)の
型状ブロック。

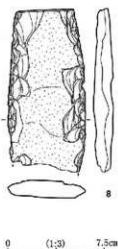


D4号-D8号土坑



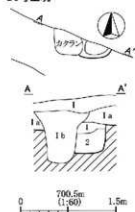
D4
1層 褐色土(T.SYR4/3)
暗褐色土(10YR2/3)
小ブロック少量。
に灰・褐色土
(T.SYR5/3)の砂子多量。
人為的。
2層 灰・褐色土(T.SYR3/3)
3層 暗褐色土(T.SYR3/3)

D8
1層 暗褐色土(T.SYR3/3)
2層 褐色土(T.SYR4/3)

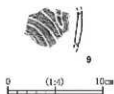


第20図 和川上遺跡Ⅱ B地区 D1号・D2号・D3号・D4号・D8号土坑

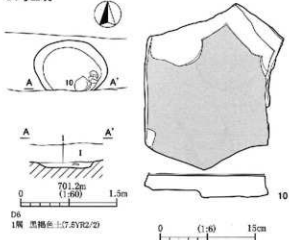
D5号土坑



- D5
1層 暗褐色土(T.SYR3/3)
2層 褐色土(T.S)
にぶ・褐色土(T.SYR6/3)
の砂子多量。しぼりあり。

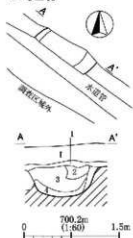


D6号土坑

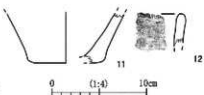


- D6
1層 黒褐色土(T.SYR2/2)

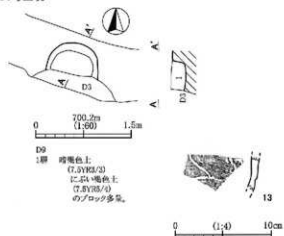
D7号土坑



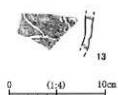
- D7
1層 黒褐色土(T.SYR2/2)
人為的。
2層 褐色土(T.SYR4/3)
黒褐色土(T.SYR2/2)の
ブロック。人為的。
3層 暗褐色土(T.SYR2/3)
人為的。
4層 褐色土(T.SYR4/3)
にぶ・褐色土(T.SYR6/4)
の層状ブロック。
人為的。



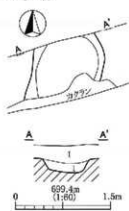
D9号土坑



- D9
1層 暗褐色土
(T.SYR2/2)
にぶ・褐色土
(T.SYR6/4)
のブロック多量。

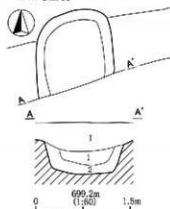


D10号土坑

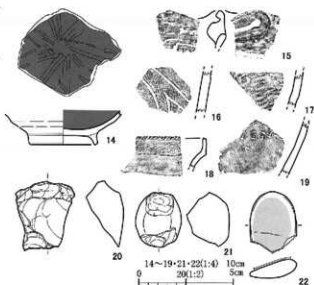


- D10
1層 黒褐色土(T.SYR2/2)
にぶ・褐色土
(T.SYR6/4)
の小ブロック多量。

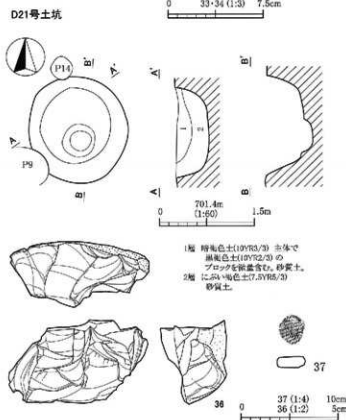
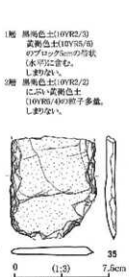
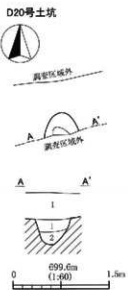
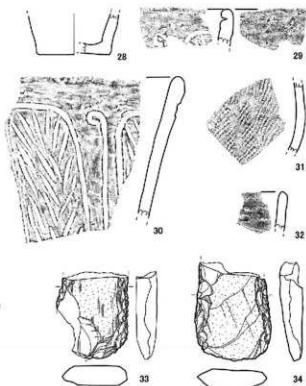
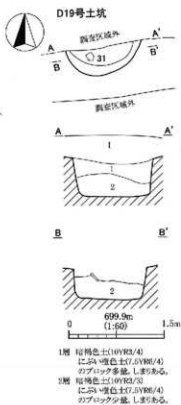
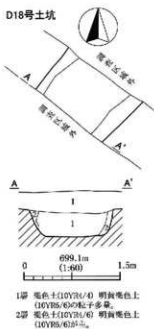
D11号土坑



- D11
1層 黒褐色土(T.SYR2/2)にぶ・褐色土
(T.SYR6/4)の小ブロック多量。
2層 黒褐色土(T.SYR2/2)にぶ・褐色土
(T.SYR6/4)の小ブロック多量。

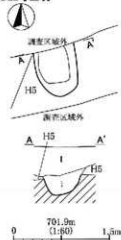


第21図 和田土遺跡Ⅱ B地区 D5号・D6号・D7号・D9号・D10号・D11号土坑



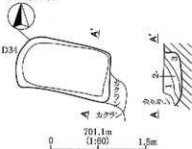
第23図 和上遺跡Ⅱ B地区 D18号・D19号・D20号・D21号土坑

D22号土坑

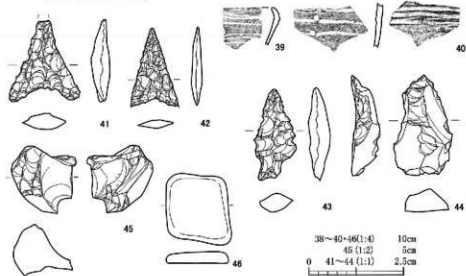


1層 黒褐色土(10YR2/2) に灰・黄褐色土(10YR5/0)の小ブロック含む。

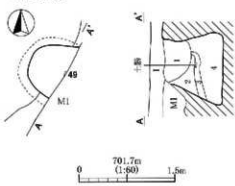
D23号土坑



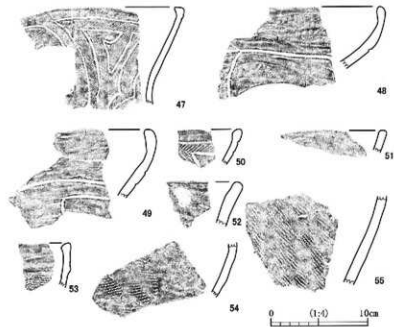
- 1層 黒褐色土(7.5YR2/2) に灰・褐色土(7.5YR5/0)の小ブロック少量。人高の堀状。
- 2層 黒褐色土(7.5YR2/2) に灰・褐色土(7.5YR5/0)の小ブロック多量。人高の堀状。
- 3層 黒褐色土(7.5YR2/2) 人高の堀状。



D24号土坑

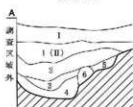
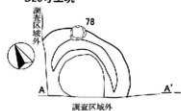


- 1層 暗褐色土(10YR2/2) に灰・褐色土(7.5YR5/0)・黒褐色土(7.5YR2/2)のブロック多量。灰少量。
- 2層 に灰・褐色土(7.5YR5/0) 褐色土(7.5YR4/2)のブロック含む。
- 3層 暗褐色土(7.5YR2/2)
- 4層 に灰・黄褐色土(10YR5/0) がたがらある。



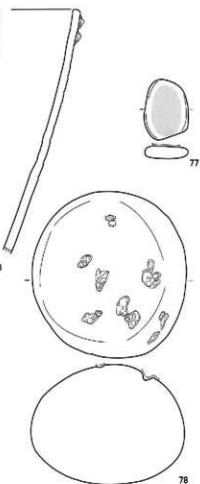
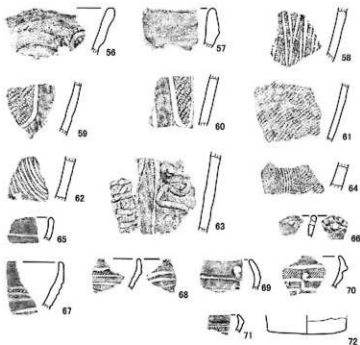
第24図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D22号・D23号・D24号土坑

D25号土坑



0 701.5cm (1:60) 1.5m

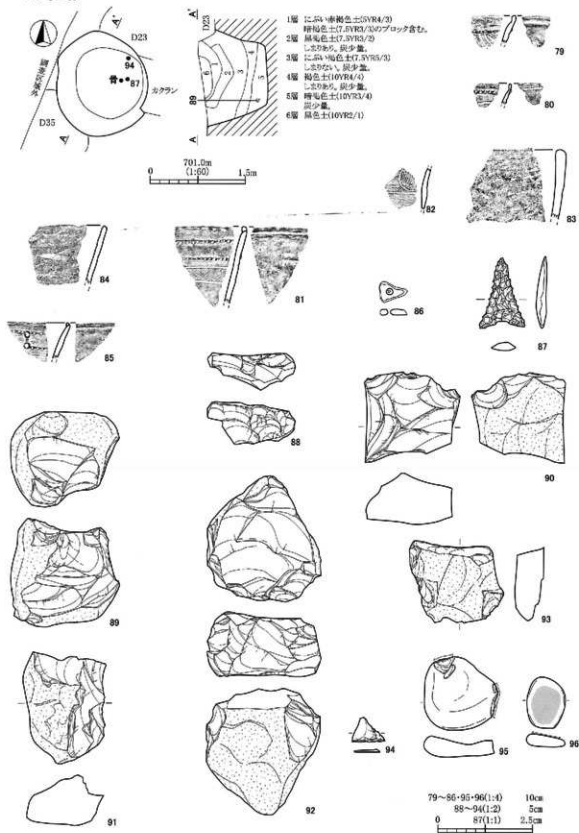
- 1層 全年溝内の土層
- 2層 暗褐色土(7.5YR5/4) 黒色土(10YR2/1)のフィラ少量。
- 3層 暗褐色土(7.5YR5/2) 少量あり。
- 4層 にごい-暗色土(7.5YR5/4) 少量あり。
3層上から1.5m。
- 5層 暗褐色土(10YR5/4) にごい-黄褐色土。(10YR5/4)の粒子少量。
- 6層 にごい-黄褐色土 (10YR5/4) 少くともる。



56~74-77-78(1:4) 10cm
75-76(1:1) 2.5cm

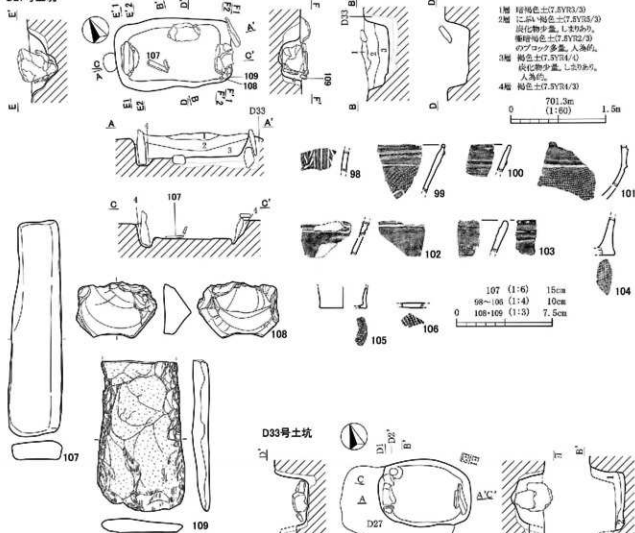
第25図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D25号土坑

D26号土坑



第26図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D26号土坑

D27号土坑

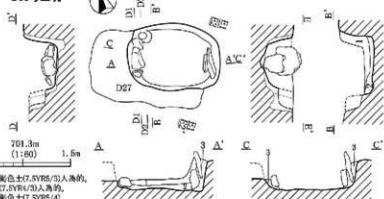


- 1層 緑褐色土(T.SYR3/3)
- 2層 紅褐色土(T.SYR5/3)炭化物少量。L.200あり。黒曜褐色土(T.SYR2/3)のフラック多量。人角形。
- 3層 褐色土(T.SYR4/4)炭化物少量。L.200あり。人角形。
- 4層 褐色土(T.SYR4/3)

0 701.3m (1:60) 1.5m

107 (1:6) 15cm
98~106 (1:4) 10cm
108-109 (1:3) 7.5cm

D33号土坑

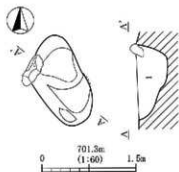


- 1層 紅褐色土(T.SYR5/3)人角形。
- 2層 褐色土(T.SYR4/3)人角形。
- 3層 紅褐色土(T.SYR5/4)

0 701.3m (1:60) 1.5m

110 (1:4) 10cm

D28号土坑

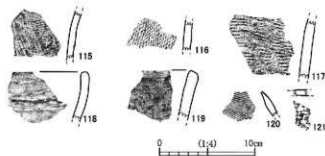
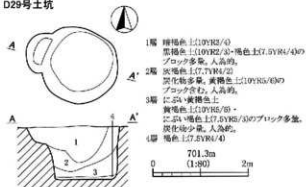


- 1層 緑褐色土(TOYR3/3)褐色土(TOYR2/1)褐色土(T.SYR4/3)のフラック多量。人角形。

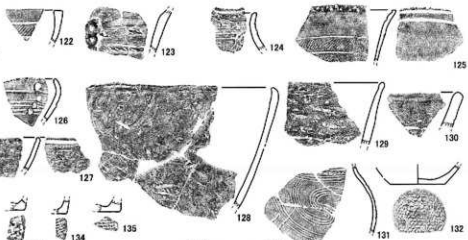
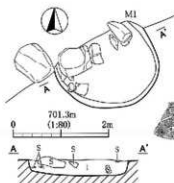
0 701.3m (1:60) 1.5m

第27図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D27号・D28号・D33号土坑

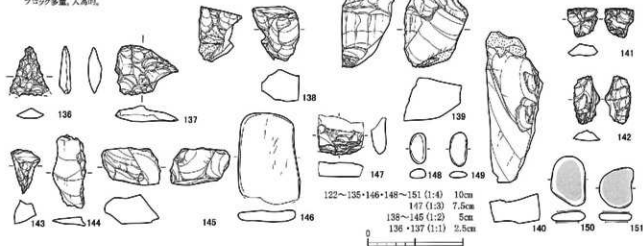
D29号土坑



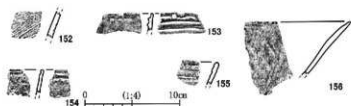
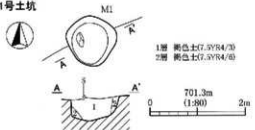
D30号土坑



1層 黒褐色土(GYR2/G)
 緑褐色土(GYR2/G)-褐色土(T.SYR4/G)
 ブロック多量、人高の。

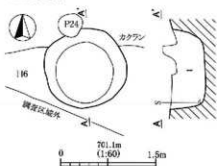


D31号土坑

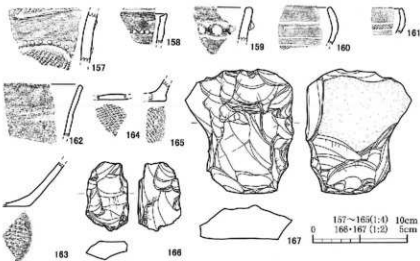


第28図 和田上遺跡Ⅱ B地区 D29号・D30号・D31号土坑

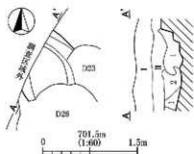
D32号土坑



- 1層 灰褐色土(7.5YR4/2)
褐色土(7.5YR4/4)
のブロック多量。
黒色土(10YR2/1)
小ブロック少量。
人為的。

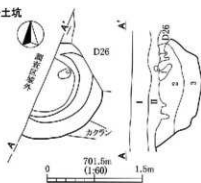


D34号土坑

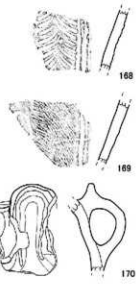


- 1層 全体層序の目録。
2層 黒褐色土(7.5YR3/2) 褐色土(7.5YR1/4)の
ブロック多量。人為的。
3層 褐色土(7.5Y4/4) 黒色土(10YR2/1)の
小ブロック含む。人為的。

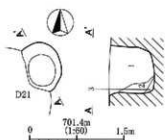
D35号土坑



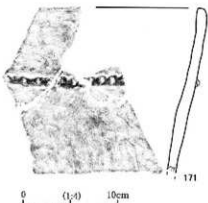
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) しまりない。人為的。
2層 褐色土(10YR1/4) 黒褐色土(10YR2/3) 小ブロック
含む。しまりない。人為的。
3層 褐色土(7.5YR1/4) しまりない。人為的。



D36号土坑



- 1層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)の
ブロック多量。少量。
人為的。
2層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)の
ブロック少量。人為的。
3層 褐色土(10YR4/4)



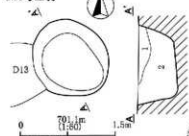
D37号土坑



- 1層 黄褐色土
(10YR2/2)

第29図 和川上遺跡Ⅱ B地区 D32号・D34号・D35号・D36号・D37号土坑

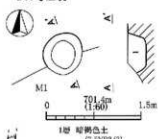
D38号土坑



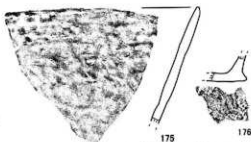
- 1層 褐色土(7.5YR4/2)
 黒褐色土(7.5YR2/2)の
 小ブロック少量。人為的。
 2層 におい黄褐色土(7.5YR5/4)
 少量。人為的。



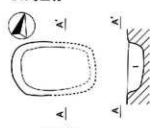
D39号土坑



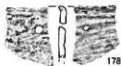
- 1層 暗褐色土
 (7.5YR3/3)



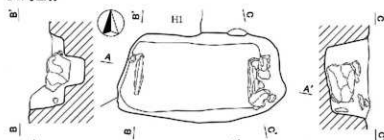
D40号土坑



- 1層 におい褐色土
 (7.5YR5/2)
 人為的。

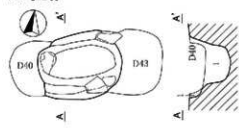


D41号土坑

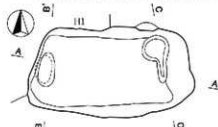


- 1層 褐色土(7.5YR4/4) 極暗褐色土
 (7.5YR3/3)の小ブロック少量。
 2層 におい褐色土(7.5YR4/2)
 褐色土(7.5YR4/2)
 1-2層よりやや粘質あり。
 4層 褐色土(7.5YR4/3)
 5層 褐色土(7.5YR4/2) 暗褐色土
 (7.5YR3/4)の小ブロック含む。
 6層 におい褐色土(7.5YR5/4)

D45号土坑



- 1層 におい黄褐色土
 (7.5YR5/2)
 人為的。

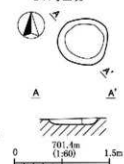


D43号土坑



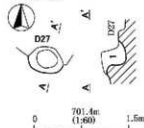
- 1層 暗褐色土(7.5YR3/1)
 主家、砂質土。
 2層 同暗褐色土(7.5YR4/2)
 主家、砂質土。
 人為的。

D44号土坑



- 1層 暗褐色土
 (7.5YR3/2)
 主家で砂質土。

D42号土坑



- 1層 におい褐色土
 (7.5YR5/2)
 暗褐色土
 (7.5YR3/2)の
 小ブロック多量。
 人為的。

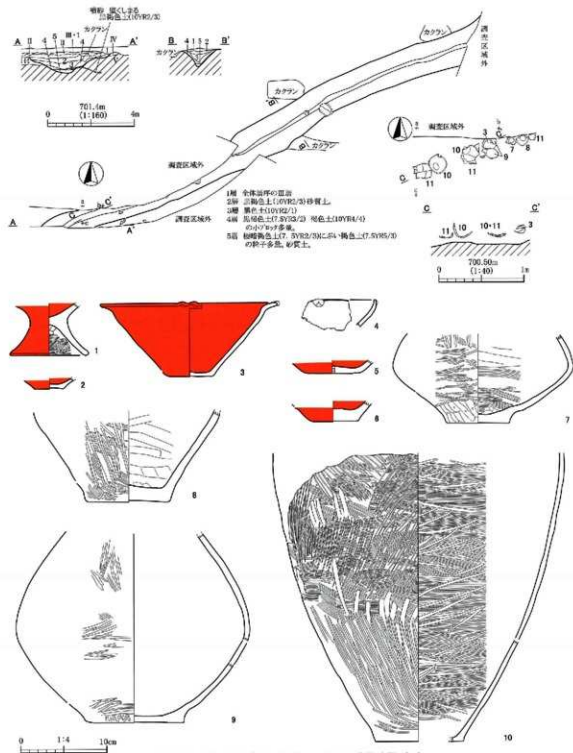
181

第30図 和上遺跡Ⅱ B地区 D38号・D39号・D40号・D41号・D42号・D43号・D44号・D45号土坑

3. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

Iこ-7・8、XIIあ-い-8~10、XIIIい-1・2Grにあり、H4・H6・D24・D30・D31・D39を切る。検出長22.8m幅1.44~1.76m深さ0.67~0.86m、溝底は東から西へ下がり勾配0.44mを測る。断面は「V」字形で溝底幅が狭いところでは0.17mである。遺物は弥生時代中期栗林式土器、高坏1、鉢2~6、壺8・9・14・15、甕10~12・16~26、台付甕13・27、後期箱清水式土器28・29、縄文時代土器称



第31図 和田上遺跡II B地区 M1号溝状遺構(1)



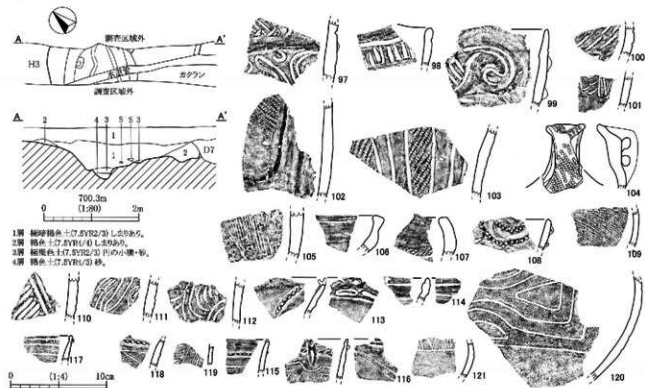
第32图 和田上道跡Ⅱ B地区 M1号溝状遺構(2)



第33図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M1号溝状遺構(3)

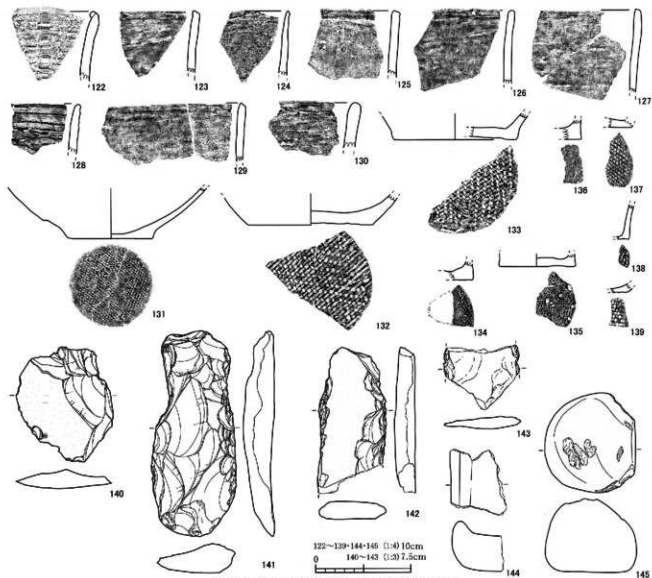
名寺式、堀之内1式、堀之内2式、加曾利B1、加曾利B2等の土器と砥石・打製石斧・敲石等の石器が出土した。最下層第5層から弥生時代中期栗林式土器、11の受口口縁甕・10の大型甕・7~9の壺・3の鉢が集中して出土。2点の弥生時代後期箱清水式の甕28・29は、上層からの出土。本址は断面形態・出土土器から弥生時代中期栗林式期の環濠といえよう。

(2) M2号溝状遺構



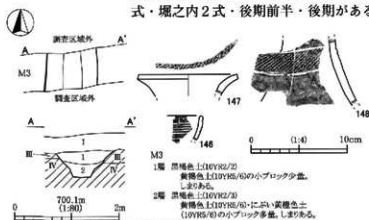
1. 黒輝磁土(T.SYR2/3) 土器のみ。
2. 黒土(T.SYR1/1) 土器のみ。
3. 黒磁土(T.SYR2/3) 内径の小壺等。
4. 黒土(T.SYR1/3) 砂。

第34図 和田上遺跡Ⅱ B地区 M2号溝状遺構(1)



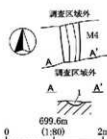
第35図 和田上遺跡B地区 M2号溝状遺構 (2)

Ⅲ二-2GrにありH3を切り、D7に切られる。幅3.2m南西側は崖に向かい、北東側は調査区域外に延びる。深さは0.8m、溝底の両側にテラスがある。覆土3・4層は流水があったとみられるが、遺物は磨耗していない。出土した土器はすべて縄文時代で、中期後半・称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・後期前半・後期がある。本址の時期は、縄文時代後期が推測される。



第36図 和田上遺跡B地区 M3号溝状遺構

M3
1層 黒褐色土(10YR2/2)
黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量、
しりあがる。
2層 黒褐色土(10YR2/2)
黄褐色土(10YR5/6)に多い黄褐色土
(10YR5/6)の小ブロック多量、しりあがる。



第37図 和田上遺跡ⅡB地区 M4号溝状遺構

M4
1層 暗褐色土(10YR2/4)
黄褐色土(10YR5/6)の
ブロック多量、

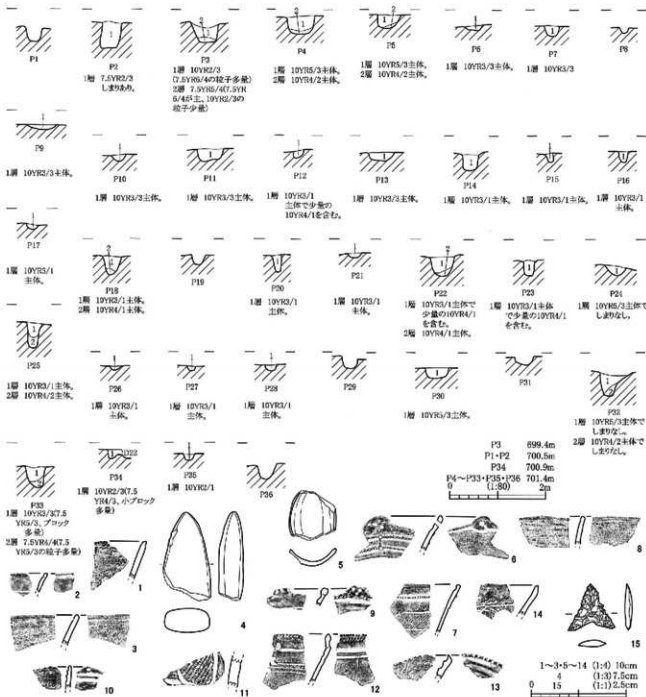
(3) M3号溝状遺構

Ⅲき・く-8Grにあり幅1.2mで深さは0.52m、断面は逆梯子形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。遺物は縄文時代加曾利B1式深鉢・弥生時代栗林式壺が出土した。本址は、弥生時代中期栗林式期の所産であろう。

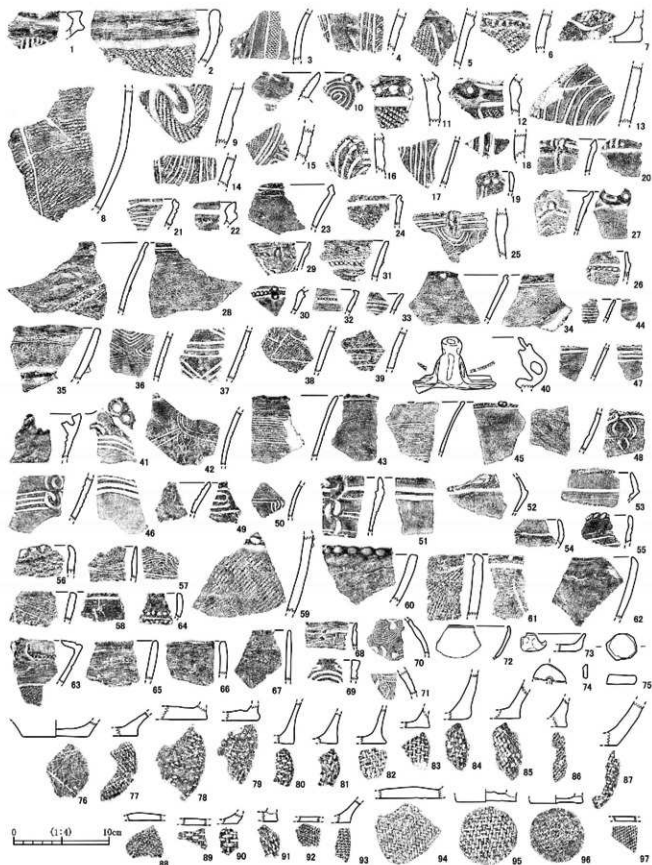
(4) M4号溝状遺構

Ⅲく-9Grにあり幅0.4mで深さは0.10m、断面は「U」字形である。両端とも調査区域外に延びる。流水跡は見られず、溝底は堅くない。出土遺物はない。

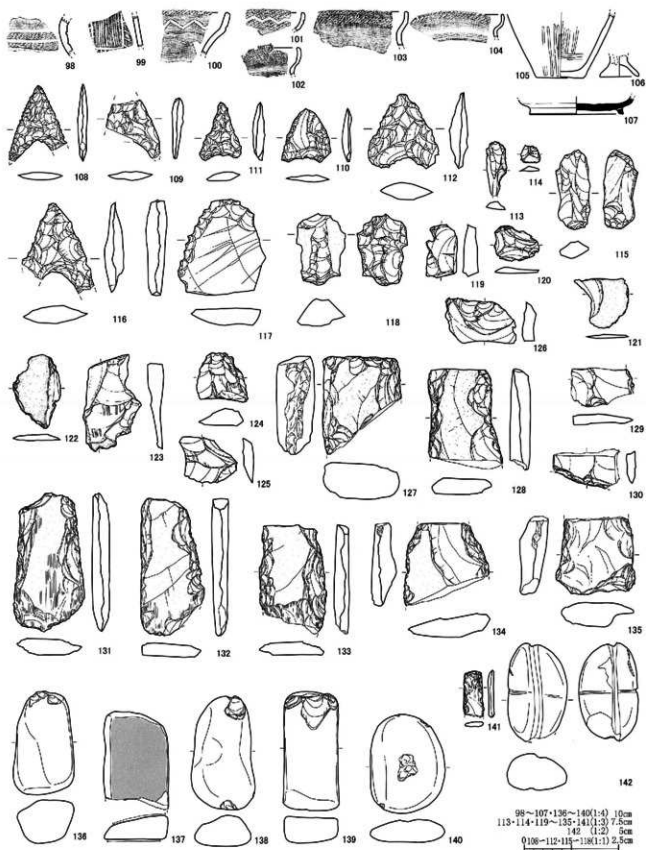
4. ビット



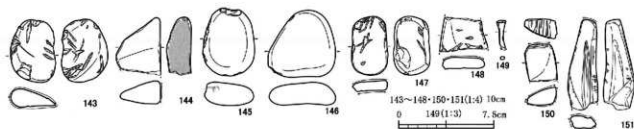
第38図 和田上道路Ⅱ B地区 ビット



第39图 和田土道跡Ⅱ B地区 道構外出土遺物(1)



第40图 和田上遺跡Ⅱ B地区 遺構外出土遺物(2)



第41図 和田上遺跡Ⅱ B地区 遺構外出土遺物(3)

ピットは36基検出され、P3がH5脇、P33・P34がH4脇、P1・P2がD2・D8の縄文時代と重複し、他の31基は鉄塔予定地点にある。柱・杭等に関連しよう。P4・P5・P7・P9・P12・P18・P22・P34からは、縄文時代中期後半・堀之内2式・加曾利B1等の土器、P4から磨製石斧・P34から石畿が出土。

5. 遺構外出土遺物

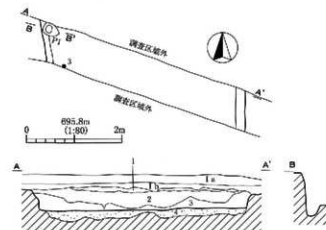
当然ながら遺構が密集する鉄塔予定地点とFトレンチから大半が出土した。遺物は縄文時代中期中葉・中期後半・称名寺式土器はごく少量で縄文時代後期堀之内1・2式や加曾利B1式が多くみられた。

第3節 馬瀬口遺跡Ⅱの遺構と遺物

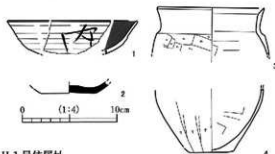
宇とう沢から市道東幹線まで650m幅0.8mの調査対象地にトレンチを設定した。結果市道よりの東側地点に遺構が偏在していた。竪穴住居址1軒、溝状遺構4条、ピット2基を検出した。西側地点では、宇とう沢に向かう旧河川跡(M1・M2)が見られただけで、遺物の出土はない。

H1号住居址 東西壁一部を検出した。壁間は4.24m壁高0.44m床面は平坦で堅い。長径36cm短径24cm深さ24cmのP1は、少し東に傾く。遺物は内面黒色処理され、「内」が墨書される土器器坪1、底部回転糸切りの須恵器坪2、薄手の土師器甕3・4が出土した。小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

溝状遺構 いずれも両端が調査区域外に延びる。M5は住居址の可能性もある。M6は、第1次調査のM5と方向が合う。テラスを持つM3からは古墳時代後期7世紀代の上師器が出土した。



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)黒色土(10YR2/1)の小ブロンク
少量・浅黄褐色土(10YR8/4)の軽石(1~5cm大)小壺
2層 黒褐色土(10YR2/2)浅黄褐色土(10YR8/4)の軽石
(1~5cm大)多量。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土(10YR2/2)の小ブロンク
小壺。
- 4層 ①赤・黄褐色土(10YR5/4)赤・黄褐色土(10YR6/3)
が主、浅黄褐色土(10YR8/4)の軽石(1~5cm)多量。

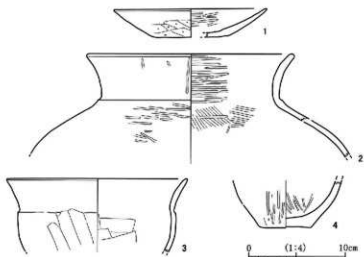
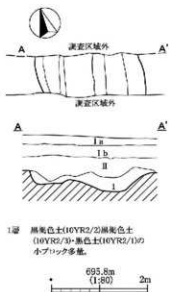


第42図 馬瀬口遺跡Ⅱ H1号住居址

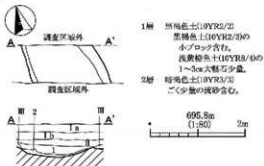
第4節 調査のまとめ

鉄塔建設予定地点を除くと幅1mにも満たない極狭い調査範囲であったが、和田上遺跡ⅡA地区では、和田上南遺跡から続く弥生時代中期と平安時代(9世紀前半)集落の広がりが明らかになった。和田上遺跡ⅡB地区では、豊富な縄文時代後期の遺物と石棺墓が検出された。さらに、佐久市平賀後家山遺跡に続く2例めとなった弥生時代中期栗林式期の環濠が調査されたことは貴重な成果であった。

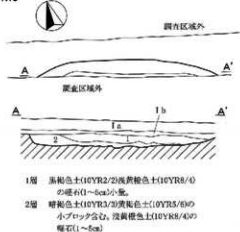
M3



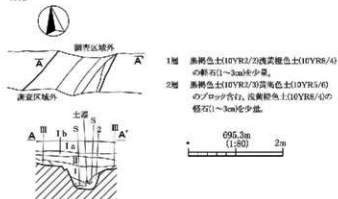
M4



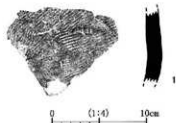
M5



M6



5Gr



第43図 馬瀬口遺跡Ⅱ M3・M4・M5・M6号溝状遺構 遺構外出土遺物

和歌山上道第Ⅱ A地区住居地

第1表 整住住居地・土坑・ピット計画一覧表

(備考) <抽出地> [確定] (cm)

路線名	抽出位置	平均値				主要方角 (掘削方角)	カマド (個)	柱穴面積			備考 掘削 等
		全延長 (cm)	深さ (cm)	幅員 (cm)	延長 (cm)			面積 (㎡)	長さ (cm)	幅員 (cm)	
H1	X北-L10 高60-17	485	-	<110>	<110>	21	-	P1 30×<20>×86	P2 26×23×6	P3 42×23×19	壁土切取 中継時代中期築付時期
H2	X北-W-9	365	-	<80>	<110>	47	-	N-8°-W	-	-	D10切取 中継時代前期築付
H3	X北-W-9	-	-	<110>	<110>	26	-	N-7°-W	-	-	中継時代
H4	X北-W 高47-9	-	-	<80>	<100>	36	-	N-10°-W	新 中流	P1 20×20×56	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
H5	X北-W 高50	-	-	<40>	-	14	-	-	-	-	築付不明
H6	X北-W 高57-8	-	-	<80>	<120>	27	-	N-10°-W	-	P1 30×<20>×86	H4に切られる 壁土切取 中継時代中期築付時期

和歌山上道第Ⅱ B地区住居地

路線名	抽出位置	平均値				主要方角 (掘削方角)	カマド (個)	柱穴面積			備考 掘削 等
		全延長 (cm)	深さ (cm)	幅員 (cm)	延長 (cm)			面積 (㎡)	長さ (cm)	幅員 (cm)	
D1	X北-W 高70	490	<34>	<50>	-	26	-	-	-	-	H2に切られる

和歌山上道第Ⅱ B地区住居地 (抽出地) <掘削地> [確定] (cm)

路線名	抽出位置	平均値				主要方角 (掘削方角)	カマド (個)	柱穴面積			備考 掘削 等
		全延長 (cm)	深さ (cm)	幅員 (cm)	延長 (cm)			面積 (㎡)	長さ (cm)	幅員 (cm)	
H1	I北-L10 I北-W-9	-	480	<200>	<200>	36	-	N-37°-W	新 中流	P1 40×35×310 P2 40×35×110 P3 40×35×110 P4 30×20×20 P5 40×30×30 P6 30×20×20 P7 30×20×17 P8 30×27×30 P9 30×20×30 P10 30×20×30 P11 30×20×30 P12 24×23×23	D12に切られる 中継時代中期築付時期
H2	X北-W-9	<100>	-	<30>	<20>	30	-	N-12°-W	-	-	築付不明 中継時代中期築付時期
H3	高32-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M2に切られる
H4	X北-W-9	<80>	-	<100>	<80>	34	-	N-20°-W	新 中流	P1 45×<40>×27	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
H5	高14-6	-	-	<110>	<50>	12	-	N-80°-E	30°印 中流	P1 43×30×86 P2 26×17×16 P4 27×<20>×86	D10に切られる 中継時代中期築付時期
H6	高16-10	265	-	<140>	140	26	-	N-16°-W	-	P1 27×34×40	D12 P28に切られる 壁土切取 中継時代中期築付時期
H7	I北-W-7	-	-	<100>	47	-	-	-	-	-	築付不明

和歌山上道第Ⅱ B地区土坑

和歌山上道第Ⅱ B地区土坑 (抽出地) <掘削地> [確定] (cm)

路線名	抽出位置	平均値				主要方角 (掘削方角)	カマド (個)	柱穴面積			備考 掘削 等
		全延長 (cm)	深さ (cm)	幅員 (cm)	延長 (cm)			面積 (㎡)	長さ (cm)	幅員 (cm)	
D1	X北-W-10	170	36	<54>	30	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D2	X北-W-10	170	45	<40>	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D3	X北-W-10	170	<50>	<30>	73	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D4	X北-W-10	170	<30>	<40>	49	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D5	X北-W-10	170	60	<20>	48	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D6	X北-W-10	170	60	<20>	14	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D7	X北-W-10	170	<30>	<40>	65	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D8	X北-W-10	170	70	<20>	67	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D9	X北-W-10	170	60	<20>	29	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D10	X北-W-10	170	115	<20>	20	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D11	高17-7	120	60	<100>	62	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D12	X北-W-10	170	30	<80>	30	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D13	I北-W	120	36	28	28	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D14	高10-9	90	37	37	39	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D15	X北-W-10	170	60	13	13	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D16	X北-W-10	170	106	<50>	55	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D17	X北-W-10	170	<80>	130	20	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D18	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D19	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D20	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D21	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D22	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D23	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D24	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D25	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D26	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D27	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D28	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D29	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D30	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D31	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D32	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D33	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D34	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D35	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D36	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D37	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D38	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D39	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D40	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D41	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D42	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D43	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D44	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
D45	V北-L (掘削地)	<80>	136	62	42	-	-	-	-	-	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期

和歌山上道第Ⅱ B地区ピット

和歌山上道第Ⅱ B地区ピット (抽出地) <掘削地> [確定] (cm)

No.	抽出位置	掘削地	深さ	幅員	備考	No.	抽出位置	掘削地	深さ	幅員	備考
1	X北-W-10	37×39	30	39	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	10	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
2	X北-W-10	42×45	30	45	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	11	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
3	高17-4	<20>×43	10	43	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	12	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
4	高16-4	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	13	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
5	高15-8	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	14	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
6	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	15	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
7	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	16	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
8	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	17	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
9	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	18	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
10	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	19	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
11	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	20	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
12	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	21	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
13	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	22	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
14	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	23	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
15	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	24	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
16	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	25	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
17	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	26	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
18	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	27	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
19	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	28	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
20	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	29	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
21	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	30	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
22	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	31	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
23	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	32	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
24	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	33	I北-W	50×38	30	38	P10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期
25	I北-W	40×40	10	40	D10切取 壁土切取 中継時代中期築付時期	34</					

第2表 和上遺跡Ⅱ A地区H1・H2・H3・H4・H6号住居址出土遺物観察表

(32)

No.	種別	材質	口縁径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	形状・調査・文相	外径	所定図・片持ち線・寸法書	調査	出土位置
1	弥生土器	土	-	-	<13.7>	ハク目	ハク目 取縁へつ接平片漆文陶文 横線漆文陶文	ハク目 取縁へつ接平片漆文陶文	完全美品	中野塚林	No.1
2	弥生土器	土	-	-	-	ハク目 ハラミナ	ハク目 ハラミナ	ハク目 取縁へつ接平片漆文陶文	完全美品	中野塚林	No.2
3	弥生土器	土	-	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	ハク目へつ接平片漆文陶文	完全美品	中野塚林	No.3
4	弥生土器	土	12.5	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文 口縁部陶文 横線漆文陶文 横線漆文陶文	完全美品	中野塚林	No.4
5	弥生土器	土	-	-	-	ハク目へつ接平片	ハク目へつ接平片	横線漆文陶文 横線漆文陶文	完全美品	中野塚林	No.5
6	弥生土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	中野塚林	No.6
7	弥生土器	土	12.0	-	<13.0>	ハク目 ハラミナ	ハク目 ハラミナ	口縁部陶文 口縁部陶文	完全美品	中野塚林	No.7
8	弥生土器	土	-	6.5	3.4	ハラミナ	ハラミナ	ハク目へつ接平片	完全美品	中野塚林	No.8
H2											
No.	種別	材質	口縁径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	形状・調査・文相	外径	所定図・片持ち線・寸法書	調査	出土位置
1	土器	土	17.0	14.0	5.4	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W4	
2	土器	土	16.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
3	土器	土	16.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
4	土器	土	14.0	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
5	土器	土	16.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
6	土器	土	17.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
7	土器	土	14.0	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
8	土器	土	16.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
9	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
10	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
11	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
12	土器	土	-	6.5	<12.7>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
13	土器	土	-	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
14	土器	土	-	6.0	<12.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
15	土器	土	16.0	-	<13.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
16	土器	土	13.0	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
17	土器	土	12.8	5.8	4.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
18	土器	土	-	6.4	<12.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
19	土器	土	14.0	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
20	土器	土	14.0	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
21	土器	土	-	5.8	<12.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
22	土器	土	-	5.0	<12.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
23	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
24	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
25	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
H3											
No.	種別	材質	口縁径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	形状・調査・文相	外径	所定図・片持ち線・寸法書	調査	出土位置
1	土器	土	-	-	8.0	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
2	土器	土	-	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
3	土器	土	-	-	<11.0>	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
4	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
5	土器	土	-	-	-	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
H4											
No.	種別	材質	口縁径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	形状・調査・文相	外径	所定図・片持ち線・寸法書	調査	出土位置
1	土器	土	25.0	24.5	3.1	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
2	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
3	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
4	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
5	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
6	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
7	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
8	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
9	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
10	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
11	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
12	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
13	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
14	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
15	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
16	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
17	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
18	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
19	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
20	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
21	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
22	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
H5											
No.	種別	材質	口縁径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	形状・調査・文相	外径	所定図・片持ち線・寸法書	調査	出土位置
1	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
2	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	
3	土器	土	24.5	23.9	1.6	ハラミナ	ハラミナ	口縁部陶文	完全美品	四方 W5	

第4表 和田上遺跡Ⅱ B地区H1・H2・H4号住居址出土遺物観察表

zom

No.	種別	素材	最大径	最大径	最大径	重量	所 属	備 考	出土位置
71	内石	輝石斑岩	<2.0>	<2.5>	<2.0>	<280.93>	上段・中層土塊 土間に埋没 加工痕跡不明		No.71
72	内石	輝石斑岩	<8.3>	<7.8>	<2.3>	<227.64>	被熱処理を呈する点に 土間に埋没		No.72
73	外石	輝石斑岩	<5.0>	<8.3>	<1.5>	<160.23>	中央欠損 土間に埋没		No.73
74	外石	輝石斑岩	<8.4>	<8.0>	<3.53>		正面が片欠損	No.74	
75	外石	輝石斑岩	<4.2>	<1.2>	<3.2>	<388.18>	土上から掘出欠損 正面が片欠損	No.75	
76	外石	輝石斑岩	28.8	27.1	18.7	978.26	正面が片欠損の台石 正面の裏側に使用痕跡不明	No.76	
77	瓦		1.5	1.7	0.05	0.44	二枚割		目録外
H4									
No.	種別	品名	口径(高)	底径(高)	胴径(高)	内 径	外 径	備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	(3.2)	-	<13.0>	ヘラナテ	ハナナテ→ヘラミガク	口縁部破欠、R 胎線破欠、R へうら破欠、底縁部破欠	完全欠損 中層土塊
2	弥生土器	甕	(3.2)	-	<6.0>	ハナナテ→ヘラミガク	ハナナテ→ヘラミガク	口縁部破欠、R 胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
3	弥生土器	甕	(7.8)	-	<6.0>	胎線	ヘラミガク	胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
4	弥生土器	甕	(8.0)	-	<14.0>	ハナナテ→ヘラミガク	ヘラミガク	完全欠損 中層土塊	
5	弥生土器	甕	-	7.8	<8.0>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線欠損 中層土塊	
6	弥生土器	甕	-	6.5	<7.2>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
7	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
8	弥生土器	甕	-	6.4	<3.6>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
9	弥生土器	甕	-	5.9	<2.0>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
10	弥生土器	甕	-	6.2	<3.2>	ハナナテ→ヘラミガク	ハナナテ→ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
11	弥生土器	甕	13.2	6.7	27.6	ハナナテ→ヘラミガク	口縁部破欠、R 胎線破欠、胎線破欠	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
12	弥生土器	甕	-	6.9	<3.2>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
13	弥生土器	甕	(18.4)	-	<3.2>	ヘラミガク	胎線破欠	胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
H1									
No.	種別	品名	最大径	最大径	最大径	重量	所 属	備 考	出土位置
14	石鏝	灰岩	1.4	1.0	3.2	0.17			フタ土
15	磐石	花崗岩	<3.7>	<2.5>	<3.4>	<149.93>	下層土塊 土間に埋没		フタ土
16	燧石片	磐石	3.4	6.2	2.6	143.37	胎線に埋没		フタ土
17	燧石	磐石(中層土塊の内部)	5.2	4.5	3.0	84.74	中央に穿孔		フタ土
18	燧石片	輝石斑岩	<4.0>	<1.4>	<2.3>	<40.85>	胎線に埋没	正面の裏側に 土間に埋没	フタ土
19	磐石	輝石斑岩	28.1	28.8	7.8	948.24	胎線破欠、胎線破欠	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損
20	磐石	輝石斑岩	17.3	22.2	7.2	614.00	胎線に埋没		No.77
H4									
No.	種別	品名	口径(高)	底径(高)	胴径(高)	内 径	外 径	備 考	出土位置
1	弥生土器	甕	(15.3)	-	<41.1>	ヘラミガク→赤色胎線	ヘラミガク→赤色胎線	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
2	弥生土器	甕	(12.8)	-	<39.0>	口縁部破欠、胎線破欠	口縁部破欠、胎線破欠	胎線破欠、胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
3	弥生土器	甕	-	8.0	<8.0>	胎線	胎線	胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
4	弥生土器	甕	-	7.0	<2.1>	ハナナテ	ヘラミガク	胎線破欠	胎線欠損 中層土塊
5	弥生土器	甕	(9.4)	-	<8.3>	口縁部破欠、胎線破欠	口縁部破欠、胎線破欠	胎線破欠	No.4
6	弥生土器	甕	-	5.2	<3.1>	ハナナテ	ハナナテ	完全欠損	中層土塊
27	弥生土器	甕	(2.0)	-	<3.0>	ヘラミガク	口縁部破欠、R 胎線破欠	胎線破欠	中層土塊
28	弥生土器	甕	(2.0)	-	<3.0>	ヘラミガク	口縁部破欠、R 胎線破欠	胎線破欠	中層土塊
31	弥生土器	甕	-	1.8(0)	ハナナテ→ヘラミガク	ハナナテ→ヘラミガク	胎線破欠	No.5	
34	弥生土器	甕	-	7.4	<8.0>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠	No.5
35	弥生土器	甕	-	7.0	<8.0>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠	No.5
36	弥生土器	甕	-	5.8	<3.1>	ヘラミガク	ヘラミガク	胎線破欠	中層土塊
37	弥生土器	二コノリ土器	-	-	<2.5>	ナテ	ナテ	胎線破欠	中層土塊
No.									
No.	種別	品名	内 容				文 様 ・ 装 飾 ・ 標 榜	備考	出土位置
7	弥生土器	甕	内面破欠による破欠の割取部分に胎線が透し					胎線破欠	中層土塊
8	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
9	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
10	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
11	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
12	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
13	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
14	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
15	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
16	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
17	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
18	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
19	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
20	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
21	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
22	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
23	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
24	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
25	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
26	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
27	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
28	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
29	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
30	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
31	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
32	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
33	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
34	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
35	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
36	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
37	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
38	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
39	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
40	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
41	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
42	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
43	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
44	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
45	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
46	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
47	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
48	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
49	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
50	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
51	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
52	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
53	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
54	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
55	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
56	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
57	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
58	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
59	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
60	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
61	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
62	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
63	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
64	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
65	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
66	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
67	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
68	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
69	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊
70	弥生土器	甕	内面へラミガク 外面へラミガク				口縁部破欠	胎線破欠	中層土塊

第5表 和田上遺跡Ⅱ B地区H4・H5・H6・H7号住居跡・土坑出土遺物観察表

(cont)

No.	種別	器種	文 様 ・ 図 案 ・ 備 考					備考	出土位置
49	陶文土器	深鉢	物(式)2本(2本入り)						
No.	種別	器種	器大径	器小径	器大深	器小深	備 考	出土位置	
53	磁石	伊磁	8.8	4.7	1.7	06.43	二重・上辺に多少の凹凸は発用痕跡か?		
54	磁石	赤 埴	9.1	2.5	1.7	06.19	上下縁部に角付痕		
55	石製	黒色磨石(チャート)	-	-	3.9	-	磨石(完成)	No.3	
52	土坑遺跡	遺構(溝)	<4.8>	<6.5>	<1.7>	<0.47>	上縁直下	土坑跡	
54	竹器	筒 簀	6.26	6.26	1.7	3.02	丸堀1	No.1	
55	竹器	筒 簀	6.26	6.26	1.0	3.13	丸堀1	No.2	
H5									
No.	種別	器種	口径(高)	底径(底)	器大径	器小径	備 考	出土位置	
1	土坑遺跡	溝	-	7.5	<2.2>	-	ヘラミガキ→掘り出し→掘り出し	防犯木割 No.1	
2	土坑遺跡	溝?	-	6.9	<2.0>	-	ヘラミガキ	アーク	
3	土坑遺跡	溝	-	6.0	<2.0>	-	ヘラミガキ→掘り出し→掘り出し	防犯木割 アーク	
4	土坑遺跡	溝	(14.0)	-	<4.6>	-	コクロナチ→掘り出し→掘り出し	アーク	
5	土坑遺跡	溝	(13.0)	7.30	3.5	-	コクロナチ→掘り出し→掘り出し	アーク	
6	土坑遺跡	溝	-	-	-	-	ヘラミガキ→掘り出し	アーク	
7	土坑遺跡	溝	(14.1)	-	<3.4>	-	ヘラミガキ→掘り出し	アーク	
H6									
No.	種別	器種	文 様 ・ 図 案 ・ 備 考					備考	出土位置
8	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 アーク
9	縄文土器	深鉢	底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 アーク
10	縄文土器	深鉢	底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 アーク
11	縄文土器	深鉢	底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 アーク
12	縄文土器	深鉢	底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 アーク
H7									
No.	種別	器種	口径(高)	底径(底)	器大径	器小径	備 考	出土位置	
1	陶文土器	深鉢	13.6	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
2	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
3	陶文土器	深鉢	13.6	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
4	陶文土器	深鉢	-	-	<1.7>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
H8									
No.	種別	器種	文 様 ・ 図 案 ・ 備 考					備考	出土位置
5	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
6	縄文土器	深鉢	外縁直下の浅溝あり						後層部 アーク
7	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
8	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
9	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
10	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
11	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
12	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
13	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
14	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
15	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
16	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
17	縄文土器	深鉢	上縁直下に浅溝あり						後層部 アーク
H9									
No.	種別	器種	口径(高)	底径(底)	器大径	器小径	備 考	出土位置	
18	磁石	磨石	6.9	4.7	3.4	4.02.14	磨石(完成)? (全周に浅く)上縁と正面・角付痕	中層部 No.1	
19	石製	磨石	1.3	3.0	3.7	9.13		No.4	
20	石製	磨石	2.1	1.2	0.26	0.26		No.5	
H10									
No.	種別	器種	文 様 ・ 図 案 ・ 備 考					備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
2	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
3	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
4	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
5	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
6	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
7	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						中層部 No.1
H11									
No.	種別	器種	口径(高)	底径(底)	器大径	器小径	備 考	出土位置	
1	陶文土器	深鉢	13.6	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
2	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
3	陶文土器	深鉢	13.6	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
4	陶文土器	深鉢	-	-	<1.7>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
5	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
6	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
7	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
8	陶文土器	深鉢	-	-	<2.2>	-	ヘラミガキ	中層部 No.1	
和田上遺跡Ⅱ B地区土坑									
No.	種別	器種	文 様 ・ 図 案 ・ 備 考					備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
2	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
3	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
4	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
5	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
6	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
7	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
8	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
9	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
10	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
11	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
12	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
13	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
14	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
15	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
16	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
17	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
18	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
19	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
20	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
21	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
22	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
23	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
24	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
25	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
26	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1
27	縄文土器	深鉢	底に浅くなぞる浅溝 底面に「帯」状の浅溝と斜め浅溝						後層部 No.1

第9表 和田上遺跡Ⅱ B地区溝状溝構・ピット出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	種別	文 様 ・ 装 飾	備考	出土位置
88	縄文土器	深鉢	治社ニ属 布の遺跡、類似深鉢	中層後半	M2上層
89	縄文土器	深鉢	深鉢状の灰土に灰粉 類似深鉢	中層後半	M2上層
90	縄文土器	深鉢	類似深鉢(磨製)	中層後半	M2上層
91	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
92	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
93	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
94	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
95	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
96	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
97	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
98	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
99	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
100	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
101	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
102	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
103	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
104	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
105	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
106	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
107	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
108	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
109	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
110	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
111	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
112	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
113	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
114	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
115	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
116	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
117	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
118	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
119	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
120	縄文土器	深鉢	類似深鉢(灰土)	中層後半	M2上層
121	縄文土器	山土器	体部がゆるゆるで、その下に細線状、段縁内、小溝状残存	縄文前期	M2上層
122	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
123	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
124	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
125	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
126	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
127	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
128	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
129	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
130	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
131	縄文土器	鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
132	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
133	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
134	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
135	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
136	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
137	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
138	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
139	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
140	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
141	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
142	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
143	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
144	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層
145	縄文土器	深鉢	縄文前期 2本線(2本線)の、縁部が折れ、高線状残存	縄文前期	M2上層

ピット

No.	種別	種別	文 様 ・ 装 飾	備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
2	縄文土器	深鉢	口縁部が折れ、高線状残存	高線状残存	P4
3	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
4	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
5	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
6	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
7	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
8	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
9	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
10	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
11	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
12	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
13	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
14	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4
15	縄文土器	深鉢	高線状残存	高線状残存	P4

はじめに

和田上遺跡(佐久市瀬戸地内)は、佐久盆地の東部、八風山・荒船山塊の山麓から派生する丘陵端に位置する。本遺跡が位置する丘陵と志賀川を挟んで対岸の丘陵上には縄文時代中期の集落が確認された寄山遺跡が位置している。本遺跡の発掘調査では、縄文時代後期、弥生時代中期、古代の竪穴住居址や縄文時代中～後期、弥生～平安時代の土坑等が確認されている。

本報告では、発掘調査で出土した炭化材の年代や樹種、骨類の種類等の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

I. 放射性炭素年代測定・樹種同定

1. 試料

試料は、BⅩD26とBⅩD28から出土した炭化材2点(No 1, 2)である。BⅩD26炭化材(No 1)は、覆土5層中から出土しており、約1cm角程度の破片である。BⅩD28炭化材は、D28北西より埋没木の可能性がある資料として採取されており、約1.5～2.0cm角程度の破片である。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定と同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and P.J Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すがが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比は、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

表1. 放射性炭素年代測定及び暦年校正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年校正期) (yrBP)	暦年校正結果						相対比	Code. No.				
				σ	cal BC	1,875	- cal	BC	1,843			cal BP	3,824	-	3,792
No.1 WD II B区 D26 5層 炭化材 (オニグルミ)	3,470±20	-24.28±0.48	3,472±24	σ	cal BC	1,818	- cal	BC	1,798	cal BP	3,767	-	3,747	0.203	IAAA- 121641
					cal BC	1,780	- cal	BC	1,746	cal BP	3,729	-	3,695	0.405	
				2 σ	cal BC	1,882	- cal	BC	1,738	cal BP	3,831	-	3,687	0.979	
					cal BC	1,707	- cal	BC	1,699	cal BP	3,656	-	3,648	0.021	
No.2 WD II B区 L28 炭化材 (モクレン属)	13,700±40	-22.02±0.61	13,700±43	2 σ	cal BC	14,964	- cal	BC	14,805	cal BP	16,913	-	16,754	1.000	IAAA- 121642
					cal BC	15,055	- cal	BC	14,727	cal BP	17,004	-	16,676	1.000	

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を視察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

出土炭化材の同位体効果による補正を行った測定年代(補正年代)は、B区D26 5層炭化材(No.1)が3,470±20yrBP、B区D28炭化材(No.2)が13,700±40yrBPを示す。また、暦年校正結果(測定誤差 σ)は、No.1がcalBP 3,824-calBP 3,695 (calBC 1,875-calBC 1,746)、No.2がcalBP 16,913-calBP 16,754 (calBC 14,964-calBC 14,805)である。

(2) 樹種同定

上述した炭化材2点は、いずれも広葉樹であり、No.1がオニグルミ、No.2がモクレン属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

・モクレン属近似種 (*Magnolia*) モクレン科

試料は小破片で、保存状態が悪く脆い。散孔材で、道管壁は中庸〜薄く、横断面では角張った楕円形〜多角形、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有するが、壁孔は破損して視察できない。放射組織は1-2細胞幅であるが、破損しており詳しい形態は不明である。

道管配列等の特徴から、モクレン属の可能性はあるが、道管内壁の壁孔や放射組織が視察できないため、近似種とした。

4. 考察

B区D26 5層炭化材(No.1)からは、calBP 3,824-calBP 3,695 (3,470±20yrBP)という結果が得られた。この値は、関東地方を中心とした東日本の年代測定の調査例(小林, 2008)に基づけば、縄文時代後期に該当する。また、炭化材はオニグルミに同定された。オニグルミは、河畔等の水分が多く、肥沃な土地に生育する落葉高木である。今回の結果から、縄文時代後期頃の本遺跡周辺に生育し、その木材が利用されたことが窺える。

佐久盆地周辺の同時期の事例では、郷土遺跡(小諸市)の縄文時代後期前葉とされる竪穴住居跡から出上

した炭化材を対象とした調査例があり、トネリコ属が確認されている(バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。

一方、B区D28炭化材(No.2)は、calBP 16,913-calBP 16,754 (13,700±40yrBP)という結果が得られた。本資料は、発掘調査時の所見では、近接する寄山遺跡等の事例から、浅間火山の第一軽石流に埋没した樹木の可能性が示唆されていた。浅間火山第一軽石流は、早川(2010)のいう平原火砕流に相当するものであり、その噴出年代は暦年で15,800年前とされている。今回得られた年代は、これより1,000年ほど古い値ではあるが、年代算定基準の違い等も考慮すれば、今回の結果は火砕流によって埋没したという所見を支持する。

浅間火山の軽石流期の古植生に関わる調査事例についてみると、上述した寄山遺跡における埋没樹は、すべて針葉樹のトウヒ属に同定されている(バリノ・サーヴェイ株式会社, 1995)。また、中長塚遺跡では、火砕流中の炭化材に針葉樹のマツ属単維管束亜属、モミ属、トウヒ属が確認されている(バリノ・サーヴェイ株式会社, 2001)。トウヒ属やマツ属単維管束亜属等のマツ科針葉樹は、南軽井沢のAs-YP(軽石流期の降下軽石)に覆われた埋没樹の樹種同定でも主体となる結果が得られている(能城ほか, 2004)。広葉樹は、南軽井沢でネズミサシ属やスイカズラ属がマツ科針葉樹に混じって確認された例や、中つ原第1遺跡の13,000-14,000yrBPの年代を示した炭化材にコナラ属が確認された例(株式会社古環境研究所, 1996)等が挙げられる。

本遺跡の埋没樹に確認されたモクレン属は、川辺や溪谷等の比較的水分の多い土地に生育する落葉高木である。おそらく調査地付近に生育した樹木であることが推定される。

II. 骨同定

1. 試料

分析に供された出土骨は、B区H 2、B区D26 2層 取上No.3、B区D35 3層から出土した3試料(No.1~3)である。これらの試料は、いずれもクリーニングされた状態にある。

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

3. 結果

出土骨3試料は、いずれも破片で白色~灰黒色を呈し、ひび割れが生じる。以下、試料ごとに結果を記す。

(1) No. 1; H 2

ニホンジカ?角?。ニホンジカの角の先端付近の可能性のある破片である。最大長26.5mm。断面は楕円形を呈しており、最大値11.5mm×9.7mm、最小値8.9mm×6.8mmを測る。

(2) No. 2; D26 No. 3

獣類(ほ乳類)。部位不明の破片である。最大長14.9mm。

(3) No. 3; D35

大型獣類(ほ乳類)。肋骨の可能性のある破片である。最大長42.2mm。

4. 考察

和山上遺跡から出土した骨は、いずれも破片で白色~灰黒色を呈し、ひび割れが生じるなど、焼骨の特徴が認められた。いずれも骨となった状態で火を受けたと考えられる。

B区H 2(No.1)は、ニホンジカの角の先端付近の可能性のある。B区D26 No.3(No.2)とB区D35(No.3)は、いずれもほ乳類であり、No.3は大きさから、シカやイノシシなどの大型獣類の可能性のある。いずれも特徴的な部位がほとんど残存していなかったため、種類の同定には至らなかった。

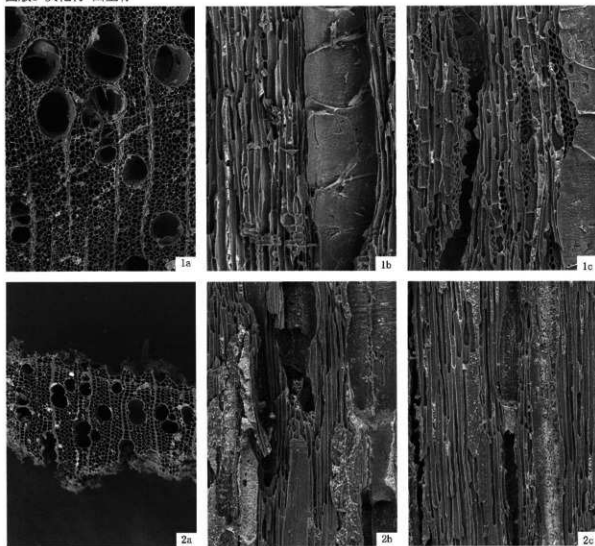
ニホンジカやイノシシ等の大型獣類は、日本各地の遺跡において焼骨として出土する事例がみられる。

本遺跡でも周辺に生育した獣類が狩猟の対象とされ、利用されていたと思われる。

引用文献

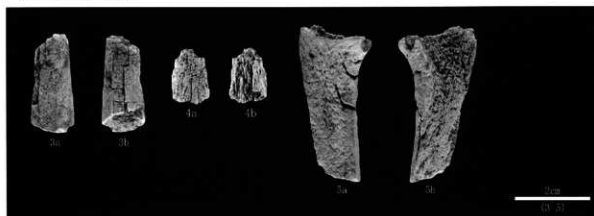
- 早川由紀夫, 2010, 浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く。群馬大学教育学部紀要 自然科学 編, 58, 65-81.
- 林 昭二, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集。京都大学木質科学研究所。
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ。木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ。木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ。木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ。木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ。木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 株式会社古環境研究所, 1996, 中ツ原1G地点出土炭化材の樹種同定。中ツ原第1遺跡G地点の研究Ⅱ, ハッ
岳旧石器研究グループ, 108-109.
- 小林謙一, 2008, 縄文土器の年代(東日本)。小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器。株式会社アム・
プロモーション, 896-903.
- 能城修一・鈴木三男・辻誠一郎, 2004, 長野県南軽井沢に広がる浅間火山テフラに覆われた更新世最末期の
埋没林。植生史研究, 13, 13-23.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 郷土遺跡出土炭化材の同定。郷土 一長野県小諸市郷土遺跡発掘調
査報告書一, 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集, 小諸市教育委員会, 52-57.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 1995, 寄山遺跡 約1.3万年前の埋没林と縄文時代中期の植物化石。寄山
湖畔に営まれた縄文中期集落の調査 寄山・寄山古墳。長野県土地開発公社・佐久市教育委員 会, 860-
864.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2001, 中長塚遺跡・松ノ木遺跡の出土遺物鑑定。一本松遺跡群 西一本柳遺
跡群V・VI, 中長塚遺跡I・II, 松ノ木遺跡I・II, 佐久市埋蔵文化財調査報告書第91集, 佐久市建設事務所・
佐久市教育委員会, 99-104.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学
顕微鏡的特徴リスト。伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p.
[Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for
Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織。地球社, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴
リスト。伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and
Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 炭化材・出土骨



1. オニグルミ (No.1; B区D26 3層)
 2. モクレン属近似種 (No.2; B区D28)
 a: 木口, b: 柃目, c: 板目

200 μ m: 1-2a
 200 μ m: 1-2b, c



3. ニホンジカ? 角? (No.1; B区H2)
 4. 獣類 部位不明破片 (No.2; B区D26 No.3)
 5. 大型獣類 肋骨? (No.3; B区D35)



馬瀬口道跡Ⅱ調査区 東より



H1号住居址 東より



H1号住居址掘り方 東より



M5号溝状遺構 東より



M3号溝状遺構 東より



M4号溝状遺構 東より



M6号溝状遺構 東より



和田上遺跡Ⅱ調査地点より浅間山を望む



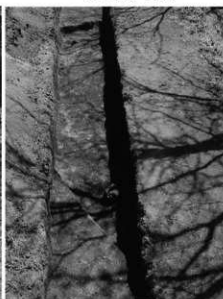
A地区近景 西より



B地区近景 西より



A地区近景 西より



A地区 H1号住居址 西より



A地区 H1号住居址 遺物出土状況



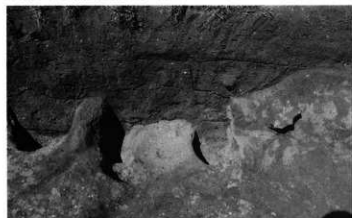
A地区 H1号住居址掘り方 東より



A地区 H2号住居址 東より



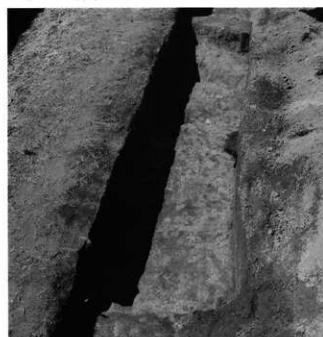
A地区 H2号住居址 西より



A地区 H2号住居址 カマド



A地区 H2号住居址 カマド掘り方



A地区 H3号住居址 東より



A地区 H3号住居址掘り方 東より



A地区 H4号住居址 東より



A地区 H4号住居址掘り方 西より



A地区 H4号住居址 壺



A地区 H4号住居址 壺掘り方



A地区 H5号住居址 東より



A地区 H5号住居址掘り方



A地区 H6号住居址掘り方 東より



B地区近景 東より



B地区近景 西より



B地区 H1号住居址 東より



B地区 H1号住居址 伊



B地区 H1号住居址 掘り方



B地区 H2号住居址 東より



B地区 H2号住居址掘り方 東より



B地区 H2号住居址 遺物出土状況



B地区 H3号住居址 東より



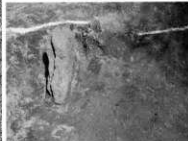
B地区 H4号住居址 東より



B地区 H5号住居址 東より



B地区 H5号住居址掘り方 東より



B地区 H5号住居址 カマド



B地区 H6号住居址 東より



B地区 H7号住居址 西より



B地区 D1号土坑 北より



B地区 D2号土坑P2 北より



B地区 D3号土坑 北より



B地区 D4号土坑 南東より



B地区 D5号土坑 北より



B地区 D6号土坑 南東より



B地区 D7号土坑 南東より



B地区 D8号土坑 北より



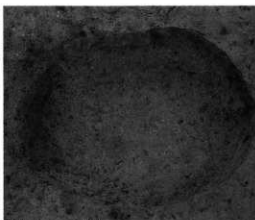
B地区 D9号土坑 北より



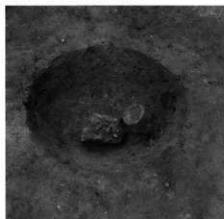
B地区 D 11号土坑 南より



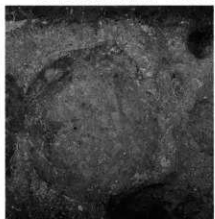
B地区 D 12号土坑北より



B地区 D 13号土坑



B地区 D 14号土坑



B地区 D 15号土坑



B地区 D 16号土坑 南東より



B地区 D 17号土坑 南東より



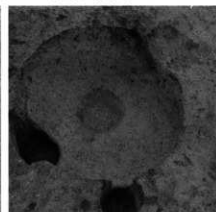
B地区 D 18号土坑 北西より



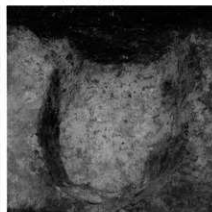
B地区 D 19号土坑 南より



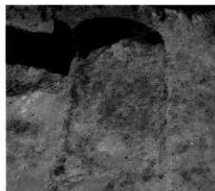
B地区 D 20号土坑 北より



B地区 D 21号土坑



B地区 D 22号土坑 南より



B地区 D 23号土坑



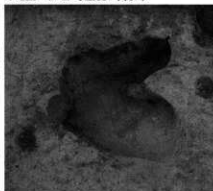
B地区 D 24号土坑 西より



B地区 D 25号土坑 北東より



B地区 D 26号土坑 北東より



B地区 D 28号土坑 南西より



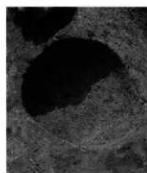
B地区 D 30号土坑 南東より



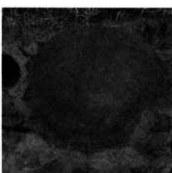
B地区 D 27号・D 33号土坑 南東より



B地区 D 27号・D 33号土坑 北東より



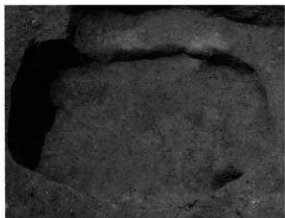
B地区 D 31号土坑 東より



B地区 D 32号土坑 南より



B地区 D 33号土坑 遺物出土状況 北東より



B地区 D 33号土坑 北東より



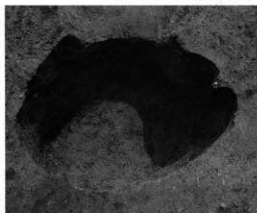
B地区 D 34号土坑 北東より



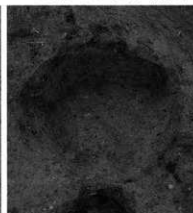
B地区 D 35号土坑 南西より



B地区 D 36号土坑 北より



B地区 D 38号土坑 北東より



B地区 D 39号土坑 北西より



B地区 D 40号土坑 東より



B地区 D 41号土坑



B地区 D 41号土坑 遺物出土状況



B地区 D42号土坑 東より



B地区 D43号土坑



B地区 M2号溝状遺構 北西より



B地区 M1号溝状遺構 西より



B地区 M1号溝状遺構 東より



B地区 M1号溝状遺構 遺物出土状況



B地区 M3号溝状遺構



B地区 P3 南より

A 地区遺構出土遺物



3-(H1-4)



3-(H1-1)



4-(H2-1)



4-(H2-21)



4-(H2-25) 1:2



4-(H2-9) 1:1



5-(H4-1)



4-(H3-1) 1:2



4-(H3-6)



4-(H3-11)



4-(H3-10)



4-(H3-9)



4-(H3-7)



4-(H3-6) 1:6

B 地区遺構出土遺物



8-(H1-2)



11-(H2-1)



11-(H2-12)



11-(H2-11)



15-(H5-5)



17-(H6-3)



20-(U2-2)



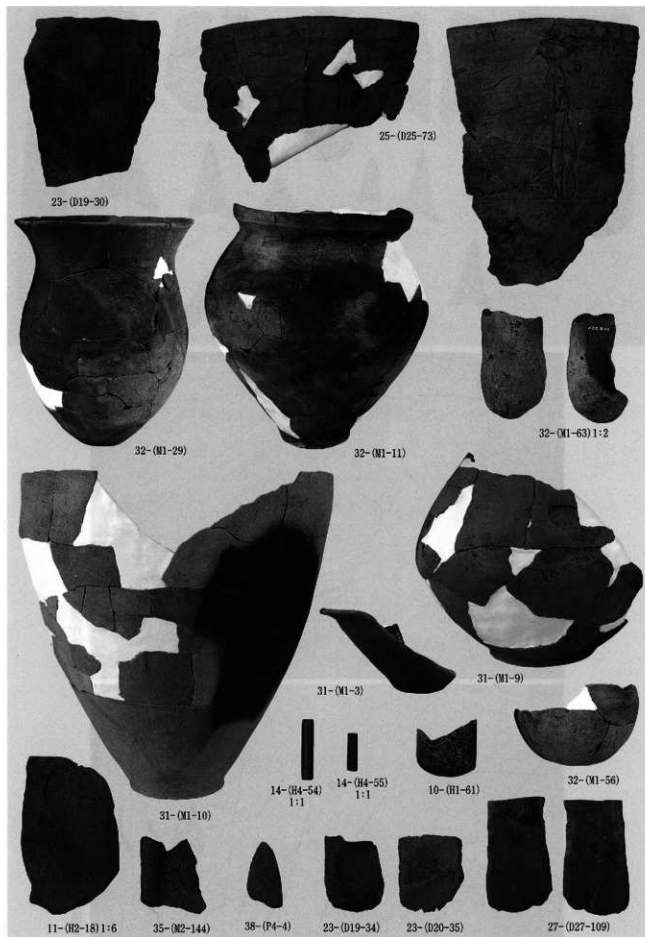
22-(D16-26)

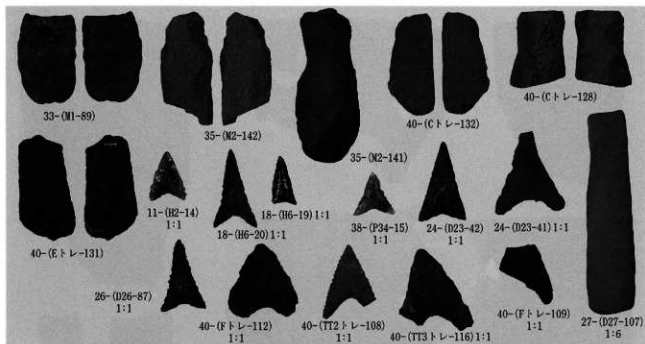


15-(H5-6) 1:1



30-(D40-178)





A地区作業風景



B地区作業風景

報告書抄録

書名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ・馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ	
ふりがな	たかしまちいせきぐんわだうえいせきに ませぐちいせきぐんませぐちいせきに	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第206集	
編著者名	林 幸彦 佐々木 宗昭	
編集・発行機関	佐久市教育委員会	
発行年月日	2013.3.25	
郵便番号	385-0006	
電話番号	0267-68-7321	
住所	長野県佐久市志賀5953	
遺跡名	高師町遺跡群和田上遺跡Ⅱ (WDⅡ)	馬瀬口遺跡群馬瀬口遺跡Ⅱ (SMMⅡ)
遺跡所在地	佐久市瀬戸2-2.30-1他	佐久市瀬戸86-1他
遺跡番号	129	250
経度	138°-29'-37" (世界測地系)	138°-29'-21" (世界測地系)
緯度	36°-15'-04" (世界測地系)	36°-15'-06" (世界測地系)
調査期間	2011.4.4~2011.6.8 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)	2011.4.4~2011.4.22 (現場) 2011.4.26~2013.3.25 (整理)
調査面積	350.25㎡	43.2㎡
調査原因	佐久リサーチパーク供給線新設工事	佐久リサーチパーク供給線新設工事
種別	集落址	集落址
主な時代	縄文時代草創期・早期・中期・後期、 弥生時代中期・後期 古墳時代後期、平安時代	古墳時代後期、平安時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址13軒 (縄文後期、弥生中期、平安) 土坑47基 溝状遺構4条 ビット36基 遺物 縄文土器・土製品 弥生土器 土師器 須恵器 鉄器 石器	遺構 竪穴住居址1軒(平安) 溝状遺構4条 ビット2基 遺物 土師器 須恵器
特記事項	縄文時代後期前半の石棺墓が検出された。 佐久市内では、希少な縄文時代後期の多くの土器・石器等が出土した。 弥生時代中期栗林式期の環濠が検出された。	平安時代馬瀬口遺跡集落の西への広がりが確認された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第206集

高師町遺跡群 和田上遺跡Ⅱ

馬瀬口遺跡群 馬瀬口遺跡Ⅱ

2013年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5963

電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印刷所 株式会社 佐久印刷所
